

社会福祉法人慈光明徳会

2024 年度事業計画・経営計画書

1. 事業計画概要

1.1 法人の基本情報

- 名称: 社会福祉法人慈光明徳会
- 所在地: 熊本県
- 設立年月日: 1964年4月20日
- 代表者情報: 藤岡洋子 (理事長)
- 法人の理念: すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します。

輝く瞳 溢れる笑顔

HAPPY SMILE THANK YOU SMILE EVERYBODY SMILE

- 運営の目的:
教育・保育を必要とする乳幼児及び児童を日々受け入れ、最善の利益を追究することにより、乳幼児・児童の健やかな成長を図る事、保護者の仕事と育児の両立支援をすること、地域の子育て支援を行うことで地域福祉に貢献することを目的とする。
- 運営方針:
児童福祉法 (昭和22年法律第164号) 及び子ども・子育て支援法 (平成24年法律第65号) その他関係法令を遵守して運営する。
・運営に当たっては、不易流行をもって時代に即した教育・福祉サービスの提供を行うものとする。
・利用者 (こども・保護者)・職員の安心・安全な生活の場とする
- 法人 credo:
仁 すべての人に愛情をもって接します。
義 子どもの最善の利益を追求し、保護者の子育てと仕事の両立支援を貫きます。
本気の子育て応援隊として臨みます。
礼 すべてのものを敬い、謙虚であることと、感謝をわすれません。
智 常に向上心・探究心を持ち、学ぶ姿勢を持ち、学ぶことと考えることを怠りません。
信 人には誠を尽くします。そこから信頼が生まれます。ご縁のあるすべての人に誠を尽くします。

1.2 事業概要

- 事業の種類・目的: 幼保連携型認定こども園、認可保育園、小規模保育事業所、放課後児童健全育成事業、地域子育て支援拠点事業、障害児通所支援事業の運営
- サービス提供地域: 東京都、熊本県
- 対象利用者層: 乳幼児、小学生、障害を持つ児童
- 提供する主なサービス: 幼保連携型認定こども園1園、認可保育園2園、小規模保育事業所3箇所、障害児通所支援事業3箇所、学童クラブ2箇所

2. 外部環境の分析

2.1 社会的な要因

- 人口動態：東京の子育て世帯の増加、熊本の過疎化による子どもの減少
- 福祉政策の動向：子ども・子育て支援新制度の推進・こども家庭庁による子育て施策の一元化・処遇の見直し・制度の見直し
- 経済状況：地域経済の差異による保育施策の違い

2.2 法的要因

- 関連法規や制度の変更：保育関連法規の更新、公定価格や各種補助金の改定

2.3 競合状況

- 東京の高い競合環境、熊本での独自性の確保

3. 内部状況の分析

3.1 組織構造

- 組織の構成：本部（熊本）と各施設（東京・熊本）
- 人員配置と役割：各施設の責任者とスタッフの配置

3.2 資金状況

- 収入源：保育料、補助金、給付費、利用料、寄付金
- 支出項目：人件費、事務費、事業費、施設整備費、借入金の元本及び利息の返還
- 財務状況の概要：安定した経営を維持しつつ、新規事業のための資金調達を計画

4. 事業目標と戦略

4.1 現状の課題

- 東京での保育施設の競争激化、熊本での運営コストと利用者数のバランス

4.2 短期目標

- 東京での障害児通所施設の新規開設
- 東京での保育園の認知度向上
- 熊本のこども園の園庭整備

4.3 長期目標

- 事業の多角化を行い、福祉業界のビジョナリーカンパニーとなる

4.4 戦略の明示

- 地域特性に合わせたサービス提供
- 事業所間でのノウハウの共有
- 法人で提供するカリキュラムの研究開発
- 人材育成ツールの作成と運用

5. サービスの詳細

5.1 各サービスの概要

- 東京：SAKURA 保育園千川（認可保育園 定員 66 名）
SAKURA 保育園谷在家（認可保育園 定員 100 名）
SAKURA 保育園竹の塚（小規模保育事業 定員 19 名）
SAKURA 保育園西新井（小規模保育事業 定員 17 名）
SAKURA 保育園綾瀬（小規模保育事業 定員 19 名）

L S J 竹の塚（障害児通所支援事業多機能型 定員 10 名）

L S J 梅田（障害児通所支援事業多機能型 定員 10 名）

L S J 谷在家（障害児通所支援事業 児童発達支援 定員 20 名

放課後デイサービス 定員 10 名）

- 熊本：慈光こども園（幼保連携型認定こども園 定員 40 名）
慈光学童クラブ（放課後児童健全育成事業 定員 40 名）
慈光学童クラブ Smile（放課後児童健全育成事業 定員 40 名）
地域子育て支援拠点 事業
病児保育事業（体調不良児対応型）
一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

6. マネジメントと運営

6.1 組織運営と管理

- **各拠点の経営状況のモニタリングと評価:**
 - 各拠点の責任者が月次の経営報告を提出し、経営指標や成果目標の達成度を確認する仕組みを構築。
 - 利用者満足度調査やスタッフのフィードバックを活用して、サービスの品質向上に向けた施策を導入。
- **コミュニケーションの促進:**
 - 定期的なオンラインミーティングや研修会を開催し、各拠点のスタッフとコミュニケーションを強化。
 - 組織全体での情報共有を行い、ベストプラクティスの共有や効果的なアイデアの採用を促進。
- **地域ごとに特性に合わせたサービス提供の最適化:**
 - 各地域の社会状況や地域住民のニーズをリサーチし、サービス提供の特性に合わせた調整を行う。
 - 地域協力企業や自治体との連携を強化し、地域社会と一体となった福祉サービスの実現を目指す。

6.2 品質管理と評価

- **サービスの質の向上を図るためのフィードバック収集:**
 - 利用者やその家族からの意見や感想を積極的に収集し、サービス提供の改善点を洗い出す。
 - スタッフに対してもフィードバックを促進し、職場環境や業務プロセスの改善に取り組む。
- **外部評価機関との連携:**
 - 外部の専門機関と連携して定期的な評価を実施し、サービスの質や法令遵守の点での向上を確認する。
 - 評価結果を積極的に利用し、組織内でのベストプラクティスの普及と問題解決に役立てる。
- **スタッフの研修とスキル向上の支援:**
 - スタッフのスキル向上を促進するための継続的な研修プログラムを構築。
 - 新しい福祉サービスの最新情報にアクセスできるよう、業界トレンドを把握し、スタッフに提供。

7. 資金調達計画

7.1 収入源の詳細

認定こども園:

- 運営費：国が定める公定価格における運営費収入
- 補助金：国または各自治体が定める補助事業に対する補助金
- 利用料：延長保育料、一時預かり保育料

認可保育園:

- 運営費：国が定める公定価格における運営費収入
- 補助金：国または各自治体が定める補助事業に対する補助金及び都道府県又は各自治体が定める事業費加算
- 利用料：延長保育料

小規模保育事業:

- 運営費：国が定める公定価格における運営費収入
- 補助金：国または各自治体が定める補助事業に対する補助金
- 利用料：延長保育料、一時預かり保育料

障害児通所支援事業:

- 運営費：国が定める定員規模別単価における報酬
- 利用料：保護者負担分における利用料
- 補助金：国及び地方自治体からの補助金や助成金:

放課後児童健全育成事業:

- 補助金：国が定めた補助金
- 利用料：保護者負担分における利用料

その他事業（地域子育て支援事業・病児保育・一時預かり事業）

- 補助金：国が定めた補助金
- 利用料：保護者負担分における利用料

7.2 支出予測

- 人件費：保育士、指導員、支援員などスタッフの給与、法定福利費など。
- 事務費：福利厚生費、研修費、賃借料等
- 事業費：給食費、保育材料費、教育指導費等
- 固定資産取得費：車両運搬具、器具及び備品取得
- 借入金元金償還支出 他

8. リスクマネジメント

8.1 予測可能なリスクと対応策

- 需要の急激な変動:
 - 対応策: 地域の人口動態や経済状況をモニタリングし、需要の変動に柔軟かつ迅速に対応する。柔軟なサービス提供の見直しを検討。

- **助成金や補助金の減少:**
 - 対応策: 複数の資金調達先を確保し、多角的な資金源を活用する。地域自治体や企業との連携の強化と、社労士や税理士等の専門職からの助言を基に、新たな助成金や補助金を探求。
- **スタッフ不足や離職率の上昇:**
 - 対応策: スタッフの定期的な研修や福祉施設での働きがい向上策を実施し、離職率の低減を図る。新規スタッフの採用プロセスを強化。
- **地域社会との連携の不足:**
 - 対応策: 地域のニーズに対応するため、地域住民や地方自治体との協働を強化。アンケート調査やイベントの開催を通じてコミュニケーションを深める。

8.2 予測困難なリスクと対応策

- **自然災害やパンデミックの影響:**
 - 対応策: 災害時の事業継続計画の策定と定期的なトレーニングを行い、パンデミックの場合は衛生対策やリモートワークの導入など柔軟な運営体制を整える。
- **法規制の変更や新たな法令の導入:**
 - 対応策: 法務顧問の助言を仰ぎ、法令の変更に対応した運営を行う。業界の動向を把握し、変更が予想される場合は早めに対策を講じる。
- **イメージダウンやリпутेशनリスク**
 - 対応策: 事前のリスクコミュニケーションや広報戦略を策定し、透明性を保ちつつ信頼性を向上。利用者の保護者や地域住民とのコミュニケーションを重視し、問題が発生した場合には迅速に対応する。

8.3 リスク管理の組織内プロセス

- **リスク評価とモニタリング:**
 - 定期的なリスク評価を実施し、新たなリスク要因を把握。モニタリング体制を構築し、リアルタイムでの変動に迅速に対応。
- **リスクへの対応計画:**
 - 各リスクに対する対応計画を事前に策定。異常発生時にはすぐに実行可能な手順を確立し、被害の最小限化を図る。
- **スタッフのリスク意識向上:**
 - スタッフに対してリスク管理の重要性を教育し、リスクへの早期対応の意識を高める。リスクに関する報告や提案を積極的に受け付ける風土を醸成。

9. スケジュールと実施計画

9.1 実行可能なスケジュール

- **プロジェクトの立ち上げ (月 1-3): (利用者の獲得や新事業)**
 - プロジェクトチームの構築、プロジェクトマネージャーの指定、目標設定。
- **外部環境分析と調査 (月 2-4):**
 - 地域の人口動態や経済状況、競合状況、法規制の調査。ステークホルダーとの対話。
- **組織内状況分析 (月 3-6):**
 - 組織の現状把握、人員配置と資金状況の詳細な分析。
- **事業目標と戦略の策定 (月 5-8):**
 - 組織目標の設定、課題の特定、短期および長期の戦略の明示。

- **プログラムやサービスの詳細設計 (月 6-9):**
 - 各事業におけるプログラムやサービスの詳細設計。効果的な提供方法や必要なリソースの確定。
- **外部環境との調整 (月 8-12):**
 - 地域住民、自治体、企業との連携を強化。外部パートナーシップの範囲を拡大。
- **資金調達計画の策定 (月 10-14):**
 - 資金調達先の特定、助成金や補助金の申請、提携企業や支援者との交渉。
- **リスクマネジメントの構築 (月 12-16):**
 - リスクの特定、評価、対応策の策定。組織内でのリスク意識向上の取り組み。

9.2 プロジェクト管理

- **プロジェクト実行 (月 16-):**
 - プログラムやサービスの提供を開始。外部との協業を強化し、プロジェクトの着実な進捗を確認。
- **組織内コミュニケーションの強化 (月 18-):**
 - 定期的な組織内会議、報告体制の確立。プロジェクト進捗の共有とスタッフのフィードバックの収集。
- **外部評価と監査 (月 20-):**
 - 外部機関によるプロジェクトの評価および監査。評価結果を参考にプロジェクトの品質向上を図る。
- **スケジュールの詳細な監視 (月 22-):**
 - プロジェクトスケジュールの進捗を厳密に監視し、遅延や問題が発生した場合には早急に対処。
- **評価と改善 (月 24-):**
 - プロジェクトの評価を実施し、成果を振り返る。得られたフィードバックを元に今後の事業展開に向けての戦略の調整と改善を実施。

幼保連携型認定こども園 慈光こども園
2024 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

熊本県球磨郡湯前町 1962-1

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益を追求し保障していきます。
- ・子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・地域の子育て支援を行います

(3) 保育方針

命を守ることを第一義にあげ、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に依拠し、安心・安全な環境のもと、以下のメソッドに基づいて教育・保育を行います。

- ・脳科学の知見を活かした適時性の保育・教育
- ・スポーツ理論（レッシュ・軸フィジカルトレーニング）による運動能力の向上
- ・体の中から生きる力をはぐくむ「食育」
- ・自然を通じた「五感教育」
- ・「躰教育」慈光こども園仕のきまり・・・人として正しい行いを学びます

上記、バランスの取れたプログラムにより、子どもの無限の可能性を引き出す環境の中で、変化する時代に対応できる「たくましく生き抜く力」を育みます

(4) 保育目標

たくましく生き抜く力をはぐくみます

世のため人のために生きようとする日本を支える人財になってほしい。

そのために、自立した誇りある日本人としての土台をつくります。

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	55名	53名	56名	+3名	▲1名	▲7名
0歳児	6名	5名	8名	+3名	▲2名	+8名
1歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
2歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名
3歳児	11名	11名	11名	0名	0名	+11名
4歳児	6名	5名	5名	0名	+1名	+5名
5歳児	16名	16名	16名	0名	0名	+16名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	31名	30名	1名	0名	(0名)

園長	1名	1名	0名	0名	(0名)
副園長	1名	0名	1名	0名	(0名)
保育教諭	15名	15名	0名	0名	(0名)
保育補助	1名	1名	0名	0名	(0名)
調理員（栄養士・調理師含む）	2名	2名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
事務員	1名	1名	0名	0名	(0名)
一時預かり職員	1名	1名	0名	0名	(0名)
子育て支援員	2名	2名	0名	0名	(0名)
学童指導員	6名	6名	0名	0名	(0名)
管理者兼自発管	0名	0名	0名	0名	(0名)

(3) 自己評価結果

施設自己評価実施時期：2024年02月

自己評価結果 スコアランキング(大項目ごと)

ランク	項目	スコア	優先度
1	5. 乳児保育のねらいと内容	4.00	高
2	11. 環境・衛生管理	4.00	高
3	8. 健康支援	3.90	高
4	13. 家庭との連携（在園児）	3.75	高
5	1. 基本的理念と社会的責任	3.67	高
6	9. 食育の推進	3.60	高
7	2. 保育の配慮事項	3.57	高
8	10. 安全管理	3.50	高
9	14. 家庭との連携（地域）	3.50	高
10	17. 組織管理	3.50	高
11	7. 3歳以上児のねらいと内容	3.44	高
12	12. 災害対策	3.33	高
13	6. 1～3歳未満のねらいと内容	3.27	高
14	3. 計画・評価・育ちの見通し	3.22	高
15	15. 職員の資質向上	3.00	高

16	16. 運営管理	3.00	高
17	4. 特別支援・障がい児保育	2.63	高

振り返り・課題

施設として、質の高い教育・保育内容を提供できており、すべての項目に置いて4評価を付けたいところであるが、伸びしろがあるということでの3評価である。各部署、子どもの最善の利益を追究し、業務には誠実に向き合い、関わりのあるすべての人の幸せを願う日々であった。問題・課題となる項目は無いに等しい。特別支援・障がい児保育に関してのみ、ケア記録への記載はしているものの個別計画等作成しておらずスコアが低くなった。日常的にグループ会社株式会社常笑で行われている児童発達支援事業LSJとの連携がとれており、療育は任せている。運動主軸の教育内容により、卒園時には支援の必要が無くなる園児がほとんどである。

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・園児の興味・関心・好奇心に寄り添いながら安心・安全な教育・保育の環境作りを行う
- ・子供たちの成長発達を「日々進化」の視点から計画を立て実践に落とし込んでいく。
- ・1・2歳児の合同クラス、4・5歳児の合同クラスという初の挑戦となる。挑戦する気持ちで、子どもたちにとっての最善の利益を保障していかなくてはならない。
- ・慈光メソッドは運動を軸に徳知体を育む。
- ・絵本の読み聞かせに始まり、本好きのこども・本から文字からの情報がとれる子に育てていく。
- ・未来に求められる力・たくましく生き抜く力の土台づくりとして、考える力・質問力・コミュニケーション力・表現力等々を運動・身体遊びを軸に置く。

振り返り・課題

- ・運動を軸としたカリキュラムを全クラス毎日実施することで全園児に著しい成長発達が見られた。特に日々の積み重ねで行われている体操からの年長児の運動能力の高さは年々向上している。
- ・特記すべきは3歳児クラスの識字力への成果である。ひらがな読み・糊・ハサミあそびに関しては毎日継続することで1学年上の力を身に着けることができた。継続することの大切さを実感する1年であり、ひらがな読みに関しては、1名を除いて全員が50音を読むことができるようになった。カタカナまで読む子がかなりの人数出ている。楽しい遊びの中で3歳児全員がひらがなを読めることを証明した1年であった。環境次第である。習字の師範である学童職員指導の「書き」の時間により、年中児の「書き」のレベルが高くなっており、正しい文字が書けるようになっていく。
- ・5歳児は年度当初は、支援が必要な児童が多いクラスであったが、職員の言葉かけ改革を行い、教えない・禁止語・否定語・命令語・指示語を無くすことで、考える力を付けようと日々試行錯誤しながら、日々の体操で体の力を身に着け、学ぶ力・考える力を身に着けていくことで心の力まで育まれた。
- ・1・2歳児合同保育は順調に進んだ。次年度も0・1・2歳児の合同保育で心配ない。年齢ごと・異年齢保育と展開できた。
- 4・5歳児の合同クラスは当初から挫折、年長児が離席等落ち着かない状況の中、落ち着いている年中児5名ではあるが、同じ活動に誘っていく余裕がなく合同保育は中断。幼年消防クラブ・運動会の鍵盤ハーモニカマーチングのみ4・5歳児合同で活動が出来た。5名しかいない年中児をどこに位置付けるか悩みつつ、最終的に新人職員に5名を担当させることで4歳児としての成長発達を保障し、生活の部分は3歳児クラスと共に過ごしお世話する側に回る事での成長が見られた。

●課題として・絵本の読み聞かせはもちろん、識字能力の向上により語彙力を育むことにももう少し力を入れていきたい。自ら本を読む子供に！！3歳児で文字が読めるようになるので、読書の量を確保することで語彙力を高めたい。

・次年度は0・1・2歳児の合同保育…こちらは問題ないが、課題となるのは3・4・5歳児の合同保育の中で年齢ごとの発達段階の保障が確実になされるカリキュラムを作成し、実施することである。

② 人材育成

目標

- ・日々進化を目指して昨日と1ミリ違う自分へと歩を進めていくように支援する。
- ・継続は力なり、日報を続ける。
- ・カタグルマの活用による人材育成を行う。(自己評価・個人面談・個人目標・研修報告・職員会議等々)
- ・SBT トレーナー・IT 人材育成助成金・レスキュートレーナーの資格取得への支援。
- ・SBT を活用した生き方指南。
- ・リーダーは徳をもって部下の育成に努める。リーダーへの園長からの教育体制を作る。

振り返り・課題

- ・日々の教育・保育内容の質を上げ、子ども達の表現活動を進化させ続けるために、職員自らが進化しつづけた。継続・繰り返し・言葉かけと言った職員自らが人的環境として意識的に向上していく姿が見られた。
- ・カタグルマの日報・個人面談・自己評価は時宜を見てカスタマイズし、フィードバックすることで一人一人と関わることができ、育成への大きな役割を果たしたと自負する。
- ・年3回実施した SBT 研修は、《他喜力》という共通言語のもと、誰のために誰を喜ばすのかという共有認識ができ、行事の際は団結力が高まりチーム力が上がる源となった。
- ・IT 人材育成は助成金を使った研修を受講した。書類の DX 化が進んだ。(リスクリング)
- ・人として正しい生き方をすることへの啓発メッセージを園児管理システムを活用し、日々送り続けた。
- ・チーム慈光として、人としても職員としても質の高い職員集団ができています。

●令和6年度は園長交替があり、今のような支援体制は作れない。職員への日々のフィードバックが無くなった時の不安が残るが、園児管理システム・SMILE・カタグルマを活用することで現在のレベルをどこまで保つことができるかが挑戦である。

③ 運営管理

目標

- ・湯前町の「保育行政の方向性として2園を継続するとのことである。・定員を落としながらの運営を行っていく。令和5年度は55名とする。令和6年度はさらに落とす。
- ・保育内容の充実・職員の安心安全で働きやすい職場を目指していく。
- ・町の子ども達が使える施設として、公園化のための施設整備を続ける。
- ・業務効率化のためのシフトメーションを導入しシフト作成への効率化をはかる。
- ・労務管理を効率化・データ化する。
- ・年間開園日数 295 日
- ・強み特技を生かした副業を勧める。

振り返り・課題

- ・目標のすべてが達成された。園児数の減少による収入減により財務的には厳しいこども園ではあるが、そのほかは、問題の無い運営である。
しかし、園舎改築から10年が経ち、あちらこちらの修繕が必要になってきている。次年度は修繕費を大きく計上してもらうようにする。
- ・公園化のための大型遊具は人気遊具となっており、休日も親子で遊びに来る姿が見られる。次年度、最終遊具が取り付けられた後は地域に開放していく。
- ・全てにおいて DX 化が進んでおり、現金扱いも次年度からはなくなる予定である。労務書類も職員自らスマホで申請できるシステムができる予定である。保護者会関連が紙媒体であったが次年度

分からはデータ化できた。保護者はスマホで書類作成ができる。

●園長交替により運営管理に関しては、新園長は未知数である。大きな進化は起きないことが予想されるが、決断決定において、支援を続け、運営管理に関しては熟知している副園長とともに停滞させずに進めていきたい。

3. 当年度目標と施策

1) 当年度目標

①保育活動 全体

- ・命を守る教育
- ・子どもの無限の可能性を引き出す環境づくりをおこない徳知体のバランスの取れた成長 発達を促す
- ・異年齢教育・保育、年齢別の教育・保育をバランスの取れた形で運用していくことで発達を保障していく
- ・継続は力なり。全ての活動において継続できる計画を立て実行する
- ・ワクワクタイムを継続してダンス・英語・日本の美しい言葉に触れる

① 保育活動 年齢別

担当	目標
0 歳児	愛着形成（笑顔の応答） ・身体能力の向上（歩行） ・絵本の読み聞かせ・わらべ歌あそび等言葉遊びを大切にする ・離乳食の完成から幼児食へのスムーズな移。 ・英語のヒアリングでネイティブな発音により聴覚を刺激 ・災害時に命を守るためのプログラムを大切にしていく
1 歳児	基本的な生活習慣の確立へ向けて援助する ・自我の芽生えを待つ保育で援助する ・身体能力の向上 ・模倣活動を見守る ・言葉の発達を後押しする：自己表現能力を身につけて行く ・食べる意欲を引き出す食育：自分で食べようとする ・保育室との連携を行う ・絵本の読み聞かせで本好きの子に育てる ・わらべ歌あそび等で言語能力をあげる ・なぐり書きで筆圧を付ける ・英語のヒアリングでネイティブな発音により聴覚を刺激 ・災害時に命を守るためのプログラムを大切にしていく
2 歳児	基本的な生活習慣の確立・自立へ向けて援助する ・自我の芽生えを育む ・身体能力の向上 ・絵本の読み聞かせ

	<ul style="list-style-type: none"> ・わらべ歌あそび ・自分で食事を摂る ・会話が楽しめるように援助する ・社会性を身に着けていく。: 他児とのかかわり ・短時間の集中力・自制心を育む ・英語のヒアリングにより英語に親しむ ・菜園活動を楽しむ。 ・保育室との連携を行う ・災害時に命を守るためのプログラムを大切にしてい
<p>3 歳児</p>	<p>徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供、以下のプログラムを実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体能力の向上 ・緻密な手指の運動能力を獲得させる ・読み書き数量に興味を示すよう働きかける ひらがなは読めるようになる ・絵本の拾い読みをする ・生活の中で数量に関わり関心を持つ ・生活習慣が自立する ・友達との関係を築く ・のびのびとした表現活動に誘。 ・什の決まりを知る ・英語が身近なものになる ・菜園活動を楽しむ。 ・食と体の関係を知る。 ・保育室との連携を行う ・災害時に自ら命を守る術を各種訓練を通して学ぶ
<p>4 歳児</p>	<p>徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供し、以下のプログラムを実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことはできるようになっている ・身体能力の向上・調整運動の獲得 ・文字や数量の獲得 ・自分で絵本を読む ・正しいひらがなを覚える ・好きな絵本が読める ・お当番活動ができる ・ルールのある遊びができる ・チームワークの基礎を育む ・感情のコントロールできるようになる ・什の決まりを守ろうとする ・英語が身近なものになる ・菜園活動を楽しむ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・食と体の関係を知る。 ・保育室との連携を行う ・災害時に自ら命を守る術を各種訓練を通して学ぶ
5 歳児	<p>徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供し、以下のプログラムを実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身辺自立の完成 ・高いレベルでの運動能力を身に着ける ・読み書き簡単な計算はできるようになる ・正しい文字を習得する。 ・什のきまりを理解し、周りにも伝えることができる ・仲間との共同作業・仲間を応援することができる ・ひも結びなどの緻密な作業もできるようになる ・英語が身近なものになる ・地域との交流をはかり地域の温かさに触れる ・湯前保育園との交流事業をおこない、就学へとつなげる ・小学校との接続期の連携体制を作り就学に繋げる ・園のリーダーとしての自覚を持ち、お手伝い活動を楽しむ ・菜園活動を楽しむ。 ・食と体の関係を知る。 ・保育室との連携を行う ・災害時に自ら命を守る術を各種訓練を通して学ぶ

② 人材育成

法人研修・カタグルマにより、高い視座を持てる職員を育成する

- ・ SBT 年 3 回
- ・ 階級別研修年 5 回、
- ・ カタグルマによるマネージメント研修
- ・ JPTC によるフィジカル研修 月 1 回
- ・ 法人年齢別・部署別研修 各部署年 2 回
- ・ チーム力の強化 日々
- ・ 強みを生かしたキャリアアップの支援 随時
- ・ コミュニケーション能力の向上 日々
- ・ カタグルマによる園長のフィードバック 随時
- ・ 統括園著の MUGEN ムービーによる思考訓練 週 5 回アップされる line 研修

③ 運営管理

園児数の減少による収入減を意識した運営に努める

- ・ 運営費の減少による経費削減の強化・・・ランニングコストを抑えていく
- ・ 修繕箇所の増加による修繕費の予算増
- ・ 命に直結する衛生管理・安全管理の維持強化
- ・ 子育てサークルから入園への流れを作る
- ・ 年 2 回、カタグルマによる保護者アンケート実施からの改善
- ・ 労務管理のペーパーレス化

各種補助事業・委託事業の実施

2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

0 歳児

① 愛着形成 (笑顔の応答)

保育者の応答的保育により愛着形成を図る。常に笑顔で接する。泣いたら応答する。仕方なく待たせる時は「ちょっと待ってね」の言葉かけを忘れない。

② 身体能力の向上

歩行・保育室でのサーキットあそび・爬虫類運動・歩行開始後は園庭で遊ばせる・階段の昇降あそびを日課とする。

③ 絵本

読み聞かせ・わらべ歌あそび等言葉遊びを毎日の日課とする。

④ 離乳食

完成から幼児食へのスムーズな移行・個別対応にて家庭との連携のもと、幼児食へと導く・味になれない素材もある。無理はしない

⑤ 英語

ヒアリング・・・パパッと英語の視聴を日課とする。

⑥ 非常訓練

職員の動きの質を高める

施策 2

1 歳児

① 基本的な生活習慣の確立へ向けて援助する

食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・挨拶・模倣活動

② 自我の芽生えを丁寧に援助する

自分でやりたい気持ちを受け入れ、待つ保育に徹する。

③ 身体能力の向上

保育室でのサーキットあそび・園庭で遊の戸外遊び・散歩・指先を使う遊び
バランスボールを使ったフィジカルトレーニング

④ 模倣活動を見守る

真似したがるものを見守り援助することで喜びの感情を育む。

⑤ 言葉の発達を後押しする

自己表現能力を身につけて行く

二語文三語文と発達していくおしゃべりにとことん付き合う。聞いてもらう喜びをあげあわせる

⑥ 食べる意欲を引き出す食育

自分で食べようとする：手づかみからスプーンへ無理なく移行し、給食の時間が大好きな子供にする。
好き嫌いも出てくるが、無理に食べさせない。

保育室前のプランターで菜園活動をおこなう

⑦ 絵本の読み聞かせ

わらべ歌あそび等豊かな言語に触れさせることで語彙力を高めていくとともに本好きのこどもに育てていく。

⑧ なぐり書き

筆圧訓練として、殴り書きの時間を日課するとともに自由に表現することの楽しさを味わう。職員

は丸だね～。何色だね～などと表現活動を後押しする。

⑨ 英語のヒアリング

パパッと英語を視聴し、ネイティブな発音に触れるとともにリズムに乗って体を動かす楽しさを味合わせる。

⑩ 非常訓練時の職員の動きの質を高める

施策3

2歳児

① 基本的な生活習慣の確立へ向けて援助する

食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・挨拶・お手伝い（模倣活動）

② 自我の芽生えを育む

自己主張を受け入れ、共感していく。

③ 身体能力の向上

保育室でのサーキット・爬虫類運動・動物歩き・散歩・戸外遊び・指先を使う

遊び・バランスボールを使ったフィジカルトレーニング

④ 絵本の読み聞かせ・わらべ歌あそび

豊かな言語の振れ、語彙力を高めるとともに本好きのこどもにしていく。

④ 自分で食事を摂る

スプーン・箸を使って自分の力で完食することを喜べるように援助する。

嫌いなものも1口でも挑戦しようとする気持ちを言葉かけで育てていく。

⑤ 菜園活動をおこなう

保育室前のプランターで菜園を作る。

⑥ 会話が楽しめるように援助する

会話ができるようになるため、しっかり聞いてあげる。

子供同士の会話も後足する。

⑦ 社会性を身に付けていく

他児とかかわり会話ができるようになり、自我も発達し、トラブルも出てくるが、年齢相応と冷静に対応していく。

⑧ 短時間の集中力・自制心を育む

活動に着座で集中できる遊びを取り入れ、一定の時間遊べるように仕向けていく。

楽しい活動を準備していく。（難しすぎず簡単すぎず）

⑨ 英語のヒアリング

パパッと英語を視聴し、ネイティブな発音に触れるとともにリズムに乗って体を動かす楽しさを味合わせる。

⑩ 常訓練時の職員の動きの質を高める

施策4

3歳児

徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供、以下のプログラムを実施する

① 身体能力の向上

毎日の体操・外遊び・ダンス・バランスボールを使ったフィジカルトレーニング

② 緻密な手指の運動能力を獲得させる

ハサミあそび・糊あそび等、指先を使う遊び

- ③ 読み書き数量に興味を示すよう働きかける
ひらがなは読めるようになる・・・遊びの中でひらがなが読めるようにする。
毎日一文字で50日。夏は、水に浮くカードで遊ぶ、生活の中で数に触れる・数層100まで
- ④ 絵本の拾い読みをする
簡単絵本を準備しておく。0・1・2等
- ③ 数量に関わり関心を持つ
日常生活の中で数を意識させていく。これはいくつ？何人？等々身近なもので数遊びをしていく
- ④ 生活習慣が自立する
食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・挨拶・お手伝いは自立
- ⑤ 保健指導
自分の身体に関心を持つ
- ⑥ 友達との関係を築く
トラブルもチャンスととらえ、保育者を仲介として解決法を学ばせていく
- ⑦ 表現活動に誘う
園長先生の絵画教室をはじめ、自由な表現活動を取り入れる。
- ⑧ 仕の決まりを知る・・・毎日唱和
- ⑨ ワクワクタイムを楽しむ
ダンス・英語・季節の歌を楽しみ、ことわざや詩を唱和することで日本語の美しさ・豊かさに触れる
- ⑩ 英語が身近なものになる
パパッと英語を日課とすることでリズム遊びを兼ねたネイティブな発音を身に付けていく。
- ⑪ お当番活動を楽しむ
- ⑫ 保育室前のプランターで菜園活動をおこなう
- ⑬ 三大栄養素を学ぶ
- ⑭ 各種訓練（非常訓練・交通指導）により自らの命の守り方を学ぶ

施策5

4歳児

徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供し、以下のプログラムを実施する

- ① 身体能力の向上・
調整運動の獲得・毎日の体操・跳び箱・ダンス・外遊び・バランスボールを使ったフィジカルトレーニング
- ② 文字や数量の獲得
ひらがなが書けるようになり、カタカナが読め、書けるようになる。
200までの数唱ができる。日常生活の中で数・量の概念に触れる経験をする。
- ③ 絵本を読む
自分で好きな絵本をいつでも見ることのできる環境を作る
- ④ 正しいひらがなが書ける
習字の時間に習得する
- ⑤ 当番活動ができる

エプロン等の着衣も自分で行えるようになっていき、給食の手伝いができ、朝礼活動も喜んで行う

- ⑥ 身の回りのことはできるようになっている・・・基本的な生活習慣は完成する。
- ⑦ 保健指導を通して、自分の身体に関心を持つ
- ⑧ ルールのある遊びができる
- ⑨ チームワークの基礎を育む・・・友達と考えながら行動を共にできるようになる。
- ⑩ 感情のコントロールができるようになる・・・我慢する心を育てる。
- ⑪ 什の決まりを守ろうとする・・・毎日唱和する。
- ⑫ 英語が身近なものになる
パパッと英語を日課とすることでリズム遊びを兼ねたネイティブな発音を身に付けていく。
- ⑬ ワクワクタイムを楽しむ
ダンス・英語・季節の歌を楽しみ、ことわざや詩を唱和することで日本語の美しさ豊かさに触れる
- ⑭ 保育室前のプランターで菜園活動をおこなう
三大栄養素を学ぶ
- ⑮ 各種訓練（非常訓練・交通指導）により自らの命を守る方法を学ぶ

施策 6

5 歳児

徳知体のバランスの取れたカリキュラムを提供し、以下のプログラムを実施する。

- ① 高いレベルでの運動能力を身に着ける
毎日の体操・跳び箱・ダンス・外遊び・バランスボールを使った
フィジカルトレーニング
- ② 読み書き簡単な計算はできるようになる
生活点検表や観察日誌等を毎日書く。
プリント学習により簡単な計算や数量・空間認識が見についていく。
- ③ 正しい文字を習得する・・・習字の時間に習得する。
- ④ 什のきまりを理解し、周りにも伝えることができる
毎日の唱和と・意味を理解することで身に付く決まりも出てくる。
- ⑤ 仲間との共同作業・仲間を応援することができる
相手の気持ちを察することができるようになっていき、協力しながら一緒に作業ができるようになる。
がんばる友達を応援しようとする気持ちも自然発生してくる。
- ⑥ 身辺自立の完成
生活習慣は園では身につけている。
- ⑦ 緻密な作業：ひも結びなどのもできるようになる。
折り紙等も緻密におこなうことができるようになる
- ⑧ 英語身近なものになる。
パパッと英語を日課とすることでリズム遊びを兼ねたネイティブな発音を身に付ける。
- ⑨ 地域との交流・・・地域のイベントに参加する
- ⑩ 小学校との接続期の連携体制を作る
幼保小中連携により、スムーズな接続期を過ごす。

- ⑪ ワクワクタイムを楽しむ
ダンス・英語・季節の歌を楽しみ、ことわざや詩を唱和することで日本語の美しさ・豊かさに触れる。
- ⑬ 保育室前のプランターで菜園活動をおこなう
- ⑭ 三大栄養素を学ぶ
- ⑮ 保健指導を通して、自分の身体に関心を持つ。
- ⑯ 16 各種訓練（非常訓練・交通指導）により自らの命の守り方を学ぶ

施策 7

年間行事：別紙参照

施策 8

保護者との連携（対応）

- ① 本気の子育て応援隊として、徹底的に保護者に寄り添い、仕事と育児の両立支援をおこなう。
- ② キッズリーを通じた家庭との連携
- ③ 朝夕の会話を大切にしていく。
- ④ 必要に応じて個別面談を行う。
- ⑤ 年1~2回の保護者アンケートにより保護者ニーズをくみ取り改善していく。

② 人材育成

施策 1

SBT 研修

年3回 他喜力の復習を年3回にわたって実施 全員参加
脳の癖を活用した思考訓練によりプラス変換ができる職員が増えるようにする。
日常的に共通言語を持ち、お互いに意識できるようになる。

施策 2

階級別研修通年

園長・主幹・中堅研修を年間通して実施 役割を認識する。
学んだことを即実行・継続できるように園長はフォローしていく。

施策 3

カタグルマによるマネジメント研修

園長対象に事業計画の作り方。人材育成の方法等学ぶ（マネジメントスケジュールの作成等）
具体的に実現可能な施策をつくり実現し、実行していく。

施策 4

JPTC によるフィジカル研修

毎月1回講師招聘により実施 バランスボールを使ったフィジカルトレーニング
希望参加、学んだことはこども達にアウトプットしていく。

施策 5

法人年齢別・部署別研修

SAKURA 保育園千川・谷在家と年齢ごとに ZOOM による情報共有をおこなう

地域性や園規模による差を超えてこども達の最善の利益となるノウハウを出し合い検証する。

施策 6

チーム力の強化

メイン行事の際はプロジェクトチームを作り、チームを中心に全職員を巻き込んでいく。具体的な計画設計が求められる。

一人はみんなのために みんなは一人のためにを職員自らが体現していく。

施策 7

強みを生かしたキャリアアップの支援

保育界のキャリアアップ研修のみならず、自分自身の強みを生かしたキャリアアップを目指すものには支援していく。

施策 8

コミュニケーション能力の向上

コミュニケーション能力の低い職員・モラルの低い職員のマイナス言動に振り回されないチームになるよう、SBT での学びを活用してスムーズな人間関係を構築し、全体を引き上げていく。

施策 9

DX 環境の向上

①フォームの使い方を学び、アンケート等作成できる人財を増やす。

②シフト管理ができる職員を育成する。

③ 運営管理

施策 1

園児数の減少による収入減を意識した運営に努める

全職員が財務の悪化を意識し、業務の効率化・働き方（残業なし）を含め効率化を目指していく。節約できるものは節約する習慣づけをする。

施策 2

子育てサークルからの入園児への流れを模索する

1 人でも入園につなげる。

誰でも参加しやすいシステムを構築しなおす。

広報活動を通して認知度を上げる。

施策 3

運営費の減少による経費削減の強化

経費削減できるものの洗い出しを行う。購入の際も安価で購入できる業者の選定をしていく。

施策 4

修繕箇所が増加による修繕費の予算増

毎年行っている保守管理（ワックスかけ・外壁掃除等）に加え、修繕箇所が見つかったら、早め修繕に心がけ、費用を最小限度に抑えるように皆が意識していく。

施策5

ナース業務

命に直結する衛生管理・安全管理の維持強化

現在の最高レベルを維持していく。

感染症等のマニュアルは必要に応じて随時更新していく。

園児に保健指導を実施することで身体に関心を持つように仕向ける。

病児保育児のケアの充実

施策6

労務管理等のペーパーレス化

休暇申請・出退勤確認さらには、保護者の提出書類のすべてをペーパーレス化にする。職員がスマートフォンを使って申請できるようにしていく。

施策7

補助事業

放課後児童健全育成事業 2 支援実施 事業計画別紙作成

病児保育事業 体調不良児対応型

延長保育事業

保育体制強化事業

保育等地域活動事業

施策8

委託事業

地域子育て支援拠点事業フォーリーブス 別紙年間計画表作成

一時預かり事業 幼稚園型・一般型

施策9

放課後児童健全育成事業

- ・すららを用いた学力の向上・個別最適化
- ・天神英語の活用により天神英語の可能性をさぐる
- ・豊富な蔵書環境を作り、読書量を増やし、本好きの児童を育成する

施策10

事務員業務

- ・労務関係書類の充実
- ・カタグルマの運用
- ・予算の月次管理
- ・委託・補助事業の全般管理
- ・その他、経理事務全般

令和6年度 地域子育て支援拠点事業 フォーリーブス事業計画

開催場所：慈光こども園 2階 保育室

開催日時：毎週月曜日～金曜日 午前10時～午後3時

利用定員：一日親子10組

職員配置：随時2名の支援員と主幹保育教諭1名

目的：地域の未就学の親子が集える場として、母親のワンオペを支える。

内容：以下の計画による。

1 サークル活動：外部講師によるイベント

月	メイン講座内容
4月	九電さんによるIHクッキング
	カラー診断
	救急救命講習
	フォトガーランド
5月	母の日制作
	タイ式マッサージ
	手形足形
	ユノカフェランチ
6月	父の日制作
	ステンシル
	プロによる撮影会
	はみがき講座
7月	救急救命講習
	ai nailさんによるハンドケア体験
	アロマ制作
	親子アート

月	メイン講座内容
8月	九電さんによるIHクッキング
	プール遊び
	手形足形
	NAMEキーホルダー
9月	美容講座
	交通安全講話
	敬老の日制作
	身体計測
10月	タイ式マッサージ
	ハロウィン撮影会
	救急救命講習
	ハイハイ競争
11月	ステンシル
	はみがき講座
	からだ楽ラク体操
	スタイづくり

月	メイン講座内容
12月	桑原さん(ユノカフェ)によるデコレーションケーキ
	しめ縄制作
	アルバム制作
	子どもの病気について
1月	節分制作
	マグホルダー
	写真キーホルダー
	マーブリング
2月	ai nailさんによるハンドケア体験
	タイ式マッサージ
	交通安全講話
	九電さんによるIHクッキング
3月	救急救命講習
	園庭遊び
	名前入りスタイづくり
	手形足形

2 サークル活動：

支援員主導による活動

3 こども園園庭に遊具設置（地域開放）

社会福祉法人慈光明徳会 SAKURA保育園 竹の塚

2024年度事業計画

はじめに

子ども・子育て支援法第34条第2項の施行により、国が定める運営基準（内閣府令）を踏まえた区市町村の条例で定める「運営に関する基準（運営基準）」を満たすことは小規模保育事業所においても求められています。

今年度も保護者のニーズに合わせ、標準時間に対応し、土曜保育についても出来るかぎり対応していきます。

職員の勤務体制についてはローテーションを組み、働き方の希望を反映したワークライフバランスの充実した勤務体制を作り個々の職員の働き方を尊重していきます。

保育所保育指針、足立区のガイドラインを活用し、保育の質を一層高めながら、子どもの最善の利益の追求と保障、子育てと仕事の両立支援に徹します。

- 職員の育成に力を入れ、法人研修・園外研修を充実させ保育の質向上を図り、子どもの成長発達に寄与していきます。
- 子どもたちが情緒の安定した時間を過ごせるよう、しっかり子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、物的・人的環境を整えていきます。
- 保護者が安心して働けるように細やかな心配りを欠かさず、また、子どもたちの楽しく過ごしている様子が保護者に伝わるよう園便り・HP・インスタグラムを充実させ、開かれた保育園づくりを心がけて地域に貢献できるよう努めていきます。
- 国、東京都、区の今後の保育の動向を職員、保護者に速やかに伝え、共に知恵を出し合い、地域における小規模保育事業所の役割を考えていきます。
- 法人本部のある熊本の慈光こども園、東京にある系列園との連携をとり、人事交流、情報交換を行いながら、法人の持つノウハウを学び、法人の行う事業全体に寄与することを目指します。
- 感染症予防対策を徹底し、衛生的で安心・安全な保育を行えるよう環境設定をいたします。

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成

認定区分	年齢区分	定員	保育士数
3号	2歳児	7名	1
	1歳児	6名	1
	0歳児	6名	2

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
25	24	25	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	24	23	22	25	

ウ 健康管理

子ども一人ひとりの発育発達の個人差（個性）を考慮しながら、健康な生活習慣を身に付け、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

- [1] 日常養護・健康管理
- [2] 病気の予防と早期発見
- [3] 安全と事故防止
- [4] 健康増進と保健指導
- [5] 環境衛生
- [6] 感染拡大防止対策、手洗い・うがい・消毒・換気の徹底

年間保健行事

保健行事	対象年齢 身体測定
乳幼児健診	0・1・2歳児組(年2回) 嘱託医 竹の塚医院

エ 保育方針

- ・子ども一人一人をあるがまま受け止め、子どもの心に寄り添い応答的保育に努める。
- ・基本的な信頼関係を築いていくなかで、自我の芽生えを大切に見守り、愛着形成を育み「自ら伸びようとする力」と意欲を育てます。
- ・運動機能の発達を促します。

オ 各組の保育目標

2歳児の年間目標

- ・保育者に見守られ、簡単な身の周りの始末を自分でできるようにする。
- ・遊具や運動用具を使い保育者や友達とのいろいろな運動遊びを通して身のこなしが少しずつできてくる。
- ・生活の中で身の回りの物の名前や簡単な数・色・形などがわかり、言葉を使って伝えたり、言葉のやりとりを楽しんだりする。

1歳児の年間目標

- ・保育者に快く世話をしてもらいながら、自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・歩行が完成し、安全で活動しやすい環境の中で自分なりに活動範囲を広げる。
- ・保育者と関わる中で、少しずつ言葉を覚え要求や自分の気持ちを簡単な言葉で伝えようとする。

0歳児の年間目標

- ・保健的で安全な環境を整え、一人一人の子どもの生活リズムを大切にし、食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求を満たす。
- ・特定の保育者との親密なかかわりを通して、人との信頼関係が芽生える。
- ・自然物や身の回りの生活用品や玩具など、見たり、触ったり、聞いたりできる豊かな環境の中で、感覚や運動的な遊びを楽しむ。

- カ 主な行事予定
- 4月 入園式・進級式
 - 5月 こどもの日
 - 6月 ミニ遠足
 - 7月 七夕の会
 - 8月 水遊び・夏祭り
 - 9月 敬老お月見会
 - 10月 運動会ごっこ ハロウィン
 - 11月 まち探検
 - 12月 クリスマス会
 - 1月 お正月の会
 - 2月 節分の会
 - 3月 ひなまつり おわかれ会 お別れ遠足

※月例行事 誕生会 身体測定 避難訓練

※英語リトミックの導入（月1回）

キ 食事

[1] 目標『しっかり食べる子』に育てる。

配慮事項・薄味、和風味に心がける。

- ・見た目においしく、食べておいしい食事づくりを心がける。
- ・保護者との連携を密にする。

[2] 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行う。また、献立をデータに保存していく。

[3] 食育

毎月… 予定献立表の配布（幼児食・アレルギー幼児食・離乳食・延長補食）する。

食育リーダーによる食育指導を行う。

掲示板… 食に関わる情報を提供する 写真付きの献立表の掲示

媒体… 1・2歳児を対象に食材の名前や料理を学べるよう、紙芝居・絵本・絵カード・DVDなどを用いて分かりやすく学ぶ。

食を考える… 0歳児は一人ひとりの離乳食の進みを保護者と情報交換し、職員間でも共有していく。

また、月1回の給食会議にて、献立や、提供された食事の感想・反省、改善案などを出し合い、よりおいしい食事作りへ取り組んでいく。食育を含め食全般についての勉強、話し合いの場としていく。

[4] 衛生管理

○衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目にそって確認する。

○調理人の細菌検査（毎月1回） 調理室・乳児調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、原材料・調理済み食品の保存（2週間）をしていく。

[5] 栄養給与目標（給食・おやつでとりたい栄養量の目安）

	エネルギー Kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミン A μ g	B1 mg	B2 mg	C mg
3歳未満児	510	19	14.5	260	2.1	210	0.28	0.33	25

[6] 離乳食に関して

「離乳の基本」が改定され、個人差を考え、無理のない離乳を進めていく。1歳児の食事に関しては、離乳食（完了食）後、間もない園児には、無理の無いようにそのまま離乳食（完了食）を準備し、少しずつ完成させていく。アレルギー児の「食物除去」も、それぞれの子どもの症状により対応し、代替食も検討する。必要により除去解除もできるようにしていく。

<離乳食の進め方>

- ① 食べ易い形で・・・個々の子どもの状態にふさわしい形で提供する。手づかみ食べを十分にし、よく噛んで食べられる子どもに育てる。
- ② 栄養と食品のバランスを考える。準備期は別として、ある程度進んだら離乳食の中に穀類・タンパク質類・野菜の三種類を合わせる。
アレルギーをおこしやすい卵については、乳児食迄使用しない献立にする。
- ③ 薄味・・・調味料をできるだけ使わず、素材の味を生かして調理する。

ク 安全管理

非常災害時の避難訓練・消火訓練 毎月1回
不審者訓練・水害訓練 年各1回 保護者引き渡し訓練 9月

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
副主任保育士	1名
保育士	3名
看護師	0名
調理員	1名（栄養士含む）
嘱託医	1名（非常勤）
常勤パート保育士	1名
非常勤パート保育士	2名
無資格パート	1名

イ 健康管

健康診断 1年 1回 細菌検査 年12回（毎月実施）
出退勤の健康視察（健康チェック表）

ウ 職員会議

- ・職員全体会議 毎月1回 随時行う
- ・リーダー会議 随時
- ・離乳食・給食会議 毎月1回
- ・学年会議 週1回
- ・ショート会議・スタンディング会議（必要に応じて）

エ 研修計画

- ・法人研修
- ・新人研修
- ・園長研修
- ・リーダー研修
- ・キャリアアップ研修
- ・全国保育協議会研修
- ・障害児保育研修
- ・足立区研修

・足立区小規模保育室連絡会研修 年2回

オ 退職・福利厚生

・福祉医療機構退職共済制度加入・ソウエルクラブ加入

2 特別保育事業

① 一時預かり事業

家庭内の子育ての孤立化解消の手助けと、保護者の都合により子育てが困難な場合に 一時的に保育支援をします。

② 延長保育促進事業

短時間認定の保育時間を超えて保育を希望する保護者に対して保育を実施します。保育短時間を超える午前7時30分から午前8時30分・午後4時30分から午後6時30分までを延長保育事業として延長保育を行います。

③ アレルギー児対応

医師による診断指示書の提出後、除去。代替食の提供を行う。

アレルギー食用の献立作成

3 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

・社会福祉法人会計基準を遵守し、適正な会計事務を行います。

・社会保険・雇用保険事務に関しては、社会保険労務士への業務委託により行います。

・その他の運営費の請求時事務等、施設運営に必要な事務については、本部との連携の下、行います。

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

下記の書類により行います。

児童票1

児童票2

入所時健康診断記録

園におけるアレルギー対応について

アレルギー調査票

健康記録と午睡チェック表

身体測定表

保育記録（園児管理システム）

食物摂取状況調査

個人写真の掲載同意書

保育園写真の取扱いに関する誓約書

(2) 設備関係

- ア 固定遊具の設備点検
固定遊具なし
- イ その他の設備点検
職員が使用のたびに点検を行う。

(3) 備品関係

- ア 備品購入予定
必要に応じて購入
- イ 保育用品購入予定
紙芝居・パネルシアター
- ウ 給食用品購入予定
必要に応じて購入
- エ 固定資産物品購入予定
クローゼット扉の取り替え 網戸の張り替え

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
毎月1回
- イ 防災設備の点検委託
年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄
○（全児童数+全職員数）×3食×（1日～3日）分

4 保護者にむけて

(1) 保育への理解と協力の促進

- ア 保育参加
保育参加は1年中オープンとし、保護者の参加を受け入れる。
夏祭り・クリスマス会・お別れ会等は参加と参観に充てます。
- イ 保護者会
年1回予定し、懇談します
個人面談
- ウ お知らせ
 - ・園だより毎月1回発行
 - ・献立表（離乳食・幼児・アレルギー）毎月1回発行
 - ・インスタグラムによる保育内容の情報公開
 - ・キッズリーによる保護者へのお知らせメールを必要に応じて送信（園長管理）

5 その他

- 近隣施設との交流（ハロウィン）
- 連携施設園との交流

社会福祉法人慈光明徳会 SAKURA 保育園（西新井）

令和6年度事業計画

はじめに

前年度同様、子ども・子育て支援法第34条第2項の施行により、国が定める運営基準（内閣府令）を踏まえた区市町村の条例で定める「運営に関する基準（運営基準）」を満たすことは小規模保育事業所においても求められています。

今年度も引き続き、保護者の子育てと仕事の両立を支援していくために標準時間、土曜保育に対応し、子供の最善の利益の追求と保障、子育てと仕事の両立支援に徹します。

○職員の育成には特に力を入れ、園内研修・園外研修もを充実させて、保育士としての責任感を持ち、実践的な保育の質の向上を図り、自身のスキルアップを元に、子どもの成長発達に寄与していきます。

○前年度より手ぶら登園を導入し保護者の持ち物を軽減したことで、保護者の方々からの喜びの声が多かったので、今年度も引き続き導入します。

○子どもたちが情緒の安定した時間を過ごせるよう、しっかり子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、物的・人的環境を整えていきます。

○ECCのパパッと英語を引き続き取り入れ、英語の歌やリトミック体操を通して楽しく英語に触れ、発達段階に応じた保育を目指します。

○保護者がより一層安心して働けるように細やかな心配りを欠かさず、又、子どもたちの楽しく過ごしている状況が保護者に伝わるように園便り、HP、インスタグラムを充実させます。

○国、東京都、区の今後の保育の動向を職員、保護者に速やかに伝え、共に知恵を出し合い、地域における小規模保育事業所の役割を考えていきます。

○法人本部のある熊本の慈光こども園、豊島区にある SAKURA 保育園千川、足立区の SAKURA 保育園谷在家、足立区小規模の SAKURA 保育園竹の塚、SAKURA 保育園綾瀬との連携をとり、人事交流、情報交換を行いながら、法人の持つノウハウを学び、法人の行う事業全体に寄与することを目指します。

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成

認定区分	年齢区分	定員	保育士数
3号	2歳児	6名	1名
	1歳児	6名	1名
	0歳児	5名	2名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
----	----	----	----	----	----	--

25	24	25	26	26	23	合 計 293日
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	24	23	22	25	

イ 月別の保育日数

ウ 健康管理

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差（個性）を考慮しながら、健康な生活習慣を身に付け、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

- [1] 日常養護・健康管理
- [2] 病気の予防と早期発見
- [3] 安全と事故防止
- [4] 健康増進と保健指導
- [5] 環境衛生

年間保健行事

保健行事	対象年齢
内科健診	0・1・2歳児組(年2回) 5月と11月

エ 保育指針

- ・情緒の安定をはかり、基本的な信頼関係を築いていくなかで、自我の芽生えを大切に見守り、大人への依存を基盤として自立への道筋をつけていきます。
- ・運動機能の発達を促します。

オ 各組の保育目標

2歳児の年間目標

- ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りの事を自分でできるようになる。
- ・生活の中で身の回りのものの名前や簡単な数、形、色などがわかり、言葉を使って伝えたり言葉のやり取りを楽しんだりする。
- ・遊びや活動を通して、興味や関心および友達との関わりを広げていく。
- ・好きな遊びや、みたて・つもり・ごっこ遊びを楽しむ。

1歳児の年間目標

- ・保育者に快く世話をしてもらいながら、自分でやろうという気持ちが芽生える。
- ・歩行が完成し、安全で活動しやすい環境の中で、自分なりに活動範囲を広げる。
- ・自我が芽生え、自分の欲求・気持ちを行動や言葉で表し自己主張する力が育つ。
- ・好きな遊びを見つけ一人遊びを楽しむ。

0歳児の年間目標

- ・安全・安心な環境の中で、一人ひとりの子どもの生活リズムを大切にし、心地よく過ごせるようにする。
- ・保育者が優しく語りかけ、ふれあいを大切にしながら安定した信頼関係を築く。
- ・見る・聞く・触れるなどを通して、身の周りに対する興味や好奇心が芽生え、遊ぶ喜びを知る。

カ 主な行事予定

- 4月 入園式・進級式、
- 5月 こどもの日の会、春の乳児健診、懇談会
- 6月 ミニ遠足、懇談会
- 7月 七夕の会、水遊び
- 8月 夏祭り
- 9月 敬老の日の会、お月見の会、個人面談
- 10月 親子遠足、ハロウィン
- 11月 引き取り訓練、七五三のお祝い、秋の乳児健診
- 12月 クリスマス会
- 1月 お正月遊びの会
- 2月 節分の会
- 3月 ひなまつりの会、懇談会、卒園式

月例行事 お誕生会・身体計測・避難訓練

キ 食事

[1] 目標『しっかり食べる子』に育てる。

配慮事項・薄味、和風献立を心がける。

- ・旬の素材を使った献立作りを心がける。
- ・見た目においしく、食べておいしい食事づくりを心がける。
- ・行事・誕生会等に合わせた献立で、食に意欲・楽しさを提供する。
- ・保護者との連携を密にする。

[2] 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行う。また、献立をデータに保存していく。

[3] 食育

毎月ー予定献立表の配布（幼児食・アレルギー幼児食・離乳食）をする。

掲示板ー食に関わる情報を毎月提供する。

食事だよりー保育園の食事の紹介や栄養情報などをまとめ、年12回発行する。

媒体ー1,2歳児を対象に食品の名前を学ぶ媒体を作り、絵本・紙芝居・手作り

パネルシアターにより実演する。

食を考える－0歳児は月1回の離乳食会議にて子どもの食事の状況、離乳食の移行時期、献立について、園長・主任・栄養士・担任が話し合う。また、月1回の給食会議にて、献立についての感想や反省、改善などや提供された食事への感想・反省、改善案などを出し合い、よりおいしい食事作りへ取り組んでいきたい。また、食育を含め食全般についての勉強、話し合いの場として行きたい。

玄関に、その日の給食のカラーコピーを掲示する。（変更時も）

[4] 衛生管理

- 衛生表を作成し、毎日衛生項目にそって確認している。
- 調理人の細菌検査（毎月1回） 調理室・乳児調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、原材料・調理済み食品の保存（2週間）をしていく。

[5] 栄養給与目標を参考に実施する。

※厚生労働省「日本人の食事摂取基準（2020年版）」及び区立園の献立実績・入所児童状況より算出した区の基準値に基づく。

エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg RAE	B 1 mg	B 2 mg	C mg	
510	19	14.5	260	2.1	210	0.28	0.33	25	

[6] 離乳食に関して

「離乳の基本」が改定され、個人差を考え、無理のない離乳を進めていく。1歳児の食事に関しては、離乳食（完了食）後、間もない園児には、無理の無いようにそのまま離乳食（完了食）を準備し、少しずつ充実完成させていく。アレルギー児の「食物除去」も、それぞれの子どもの症状により対応し、必要により除去解除できるようにしていく。（代替え食も考慮する。）
<離乳食の進め方>

- ① 食べやすい形で・・・子どもの状態にふさわしい形で与える。手づかみ食べを十分にし、噛める子どもに育てる。
- ② 栄養と食品のバランスを考えて・・・準備期は別として、ある程度進んだら離乳食の中に穀類・タンパク質類・野菜の三種類を合わせる。
アレルギーをおこしやすい卵については、中期食迄使用しない献立にする。
- ③ 薄味で・・・調味料をできるだけ使わず、素材の味を生かして調理する。

ク 安全管理

非常災害時の避難訓練・消火訓練 毎月1回

不審者訓練・浸水時訓練 年2回

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長	1名
主任保育士	1名
副主任保育士	1名
保育士	2名
看護師	1名
調理員	1名（管理栄養士含む）
嘱託医	1名（非常勤）
非常勤、パート	若干名

イ 健康管理

健康診断	1年	1回
細菌検査	1年	12回

ウ 職員会議

- ・職員全体会議 毎月1回 ※随時
- ・リーダー会議 ※随時
- ・離乳食・給食会議 毎月1回
- ・行事前話し合い ※随時

エ 研修計画

- ・職場研修
 - ・新人研修
 - ・リーダー研修
 - ・足立区研修
 - ・全国保育協議会研修
 - ・障害児保育研修
 - ・キャリアアップ研修
 - ・東京都の研修
 - ・足立区小規模保育室連絡会研修年2回
- ※リモート研修、動画研修になる場合あり

オ 退職・福利厚生

- ・福祉医療機構退職共済制度加入
- ・ソウエルクラブ（福利厚生）

2 特別保育事業

① 一時預かり保育事業

家庭内の子育ての孤立化解消の手助けと、保護者の都合により子育てが困難な場合に一時的に保育支援します。

② 延長保育促進事業

保育短時間認定の園児に対して、保育短時間を超える午後6時30分までを延長保育事業として延長保育

を行い、平常の保育時間を超えて保育を希望する保護者に対して、保育を実施します。

3 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・社会福祉法人会計基準を遵守し、適正な会計事務を行います。
- ・社会保険・雇用保険事務に関しては、社会保険労務士への業務委託により行います。
- ・その他の運営費の請求時事務等、施設運営に必要な事務については、本部との連携の下、行います。

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

下記の書類により行います。

児童票 1

児童票 2

入所時健康診断記録

園におけるアレルギー対応について

アレルギー調査票

健康記録と午睡チェック表

身体測定表

保育記録

食物摂取状況調査

個人情報保護写真等確認表

個人情報使用同意書

保育園写真の取扱いに関する誓約書

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

固定遊具なし

イ その他の設備点検

職員が使用の都度、点検を行う。

(3) 備品関係

ア 備品購入予定

必要に応じて購入

イ 保育用品購入予定

必要に応じて購入

ウ 給食用品購入予定

- 必要に応じて購入
- エ 固定資産物品購入予定
特になし

(4) 災害対策

- ア 避難訓練
毎月1回 ※別途不審者訓練、水害訓練を行う。
- イ 防災設備の点検委託
年2回（内、届け出1回）
- ウ 非常食糧の備蓄
○（全児童数+全職員数）×3食×（1日～3日）分

4 保護者にむけて

(1) 保育への理解と協力の促進

- ア 保育参加
保育参加は1年中オープンとし、保護者の参加を受け入れる。親子遠足、クリスマス、お別れ会等は参加と参観に充てます。
- イ 保護者会
年1～2回 クラス毎に懇談します。
- ウ 個人面談
年1～2回 ※随時
- エ お知らせ
 - ・園だより毎月1回発行
 - ・献立表（離乳食・幼児・アレルギー）毎月1回発行
 - ・食事・離乳食だより毎月1回発行
 - ・保健だより毎月1回発行

5 地域社会との連携

開かれた保育園を目指し、地域との関わりを積極的に持つように努める。

- ・地元町会への参加
- ・近隣商店との連携
- ・近隣中学校・小学校・保育園・児童館等の教育施設・児童福祉施設との連携
- ・福祉センターとの連携 等

6 その他

第三者評価を受審し、結果を公表する。

社会福祉法人慈光明徳会 SAKURA保育園 綾瀬

2024年度事業計画

はじめに

子ども・子育て支援法第34条第2項の施行により、国が定める運営基準（内閣府令）を踏まえた区市町村の条例で定める「運営に関する基準（運営基準）」を満たすことは認定小規模保育事業所においても求められています。

今後もさらなる少子化で子どもの絶対数が減少していくなか、引き続き自園で取り組んでいる英語リトミック・赤ちゃん体操・季節の行事、また近隣の施設「あやセンターぐるぐる」を活用しながら子どもたちが成長していく姿をわかりやすく発信していきます。また職員の急な退職により力を入れることが難しかった園外散歩においても安全対策をしっかりと行ったなかで、子どもたちの好奇心を刺激し探求心を深める保育を目指します。

新型コロナウイルス等の感染予防対策を徹底し安全、安心の中で工夫した保育をおこないます。

○職員の育成に力を入れ、園内研修・園外研修・小規模3園との年齢別ミーティングを充実させて職員の質の向上を図り、子どもの成長・発達に寄与していきます。

○子どもたちが情緒の安定した時間を過ごせるよう、しっかり子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、物的・人的環境を整えていきます。

○保護者がより一層安心して働けるように細やかな心配りを欠かさず、又、子どもたちの楽しく過ごしている状況が保護者に伝わるように（海外の方々にもわかりやすく丁寧な説明をしていく）園便り、ブログ、HPを充実させます。

○個々の発達段階、家庭環境に合わせ、LSJ 梅田・子ども支援センターげんきとの専門的指導の共有を図り、安全確保と健全な発達のため見守り配慮していきます。

○国、東京都、区の今後の保育の動向を職員、保護者に速やかに伝え、共に知恵を出し合い、地域における小規模保育事業所の役割を考えていきます。

○法人本部のある熊本の慈光こども園と連携をとり、人事交流、情報交換を行いながら、法人の持つノウハウを学び、法人の行う事業全体に寄与することを目指します。

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成

認定区分	年齢区分	定員	保育士数
3号	2歳児	9名	2
	1歳児	4名	1
	0歳児	6名	2

イ 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
25	24	25	26	26	23	

10月	11月	12月	1月	2月	3月	293日
25	26	24	23	22	25	

ウ 健康管理

子ども一人ひとりの発育発達の個人差（個性）を考慮しながら、健康な生活習慣を身に付け、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

- [1] 日常養護・健康管理
- [2] 病気の予防と早期発見
- [3] 安全と事故防止
- [4] 健康増進と保健指導
- [5] 環境衛生

※新型コロナウイルス等の感染拡大防止対策、換気・消毒・うがい・手洗いの徹底。

年間保健行事

保健行事	対象年齢
内科健診	0・1・2歳児組(年2回)

エ 保育指針

- ・情緒の安定をはかり、基本的な信頼関係を築いていくなかで、自我の芽生えを大切に見守り、大人への依存を基盤として自立への道筋をつけていきます。
- ・運動機能の発達を促します。

オ 各組の保育目標

2歳児の年間目標

- ・保育者との安定した関わりの中で、基本的な生活習慣を身につける。
- ・いろいろな経験を通して、自分の思いや要求を言葉で表現したり、いろいろな運動遊びを通して運動機能をはかる。

1歳児の年間目標

- ・自分でしようとする気持ちの芽生えを援助されながら基本的な習慣を身につける。
- ・遊びの中で自分の思いを動作や片言で表現し、友だちへの関心を示す。

0歳児の年間目標

- ・ひとりひとりの発達・発育状態に応じて離乳や歩行の完成を目指す。
- ・ひとりひとりの子どもの生活リズムを安定させ、安全で清潔な環境のなか心地よく過ごせるようにする。

- カ 主な行事予定
- 4月 入園式、進級式
 - 5月 こどもの日の集い・春の健康診断
 - 6月 ミニ遠足

- 7月 七夕の会・個人面談
- 8月 水遊び・夏まつり
- 9月 お月見の会
- 10月 運動会ごっこ、ハロウィンごっこ
秋の健康診断
- 11月 お店やさんごっこ
- 12月 クリスマス会
- 1月 お正月遊び
- 2月 節分の会
- 3月 ひなまつりの会、おわかれの会
- 月例行事 お誕生会・身体測定・避難訓練
- 毎月一回 ソダツラボ英語リトミック
赤ちゃん体操（随時）

※コロナウイルス等の感染拡大予防のため変更になる場合あり。

キ 食事

[1] 目標『しっかり食べる子』に育てる。

配慮事項・薄味、和風献立に心がける。

- ・旬の素材を使った献立作りを心がける。
- ・見た目においしく、食べておいしい食事づくりを心がける。
- ・保護者との連携を密にする。

[2] 栄養管理

毎日の献立の栄養計算を行う。また、献立をデータに保存していく。

[3] 食育

毎月ー予定献立表の配布（幼児食・アレルギー幼児食・離乳食）をする。

掲示板ー食に関わる情報を提供する。

食事だよりー保育園の食事の紹介や栄養情報などをまとめ、年12回発行する。

媒体ー1、2歳児を対象に食品の名前を学ぶ媒体を作り、手作りのホワイトボードにより食材を掲示する。

食を考えるー0歳児は個人の成長に合わせ、子どもの食事の状況、離乳食の移行時期、献立について、園長・担任・栄養士が話し合う。また、期別反省にて、献立についての感想や反省、改善などや提供された食事への感想・反省、改善案などを出し合い、よりおいしい食事作りへ取り組んでいきたい。また、食育を含め食全般についての勉強、話し合いの場として行きたい。

[4] 衛生管理

- 衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目にそって確認している。
- 調理人の細菌検査（毎月1回） 調理室・乳児調理室の掃除、ワゴン清掃（毎日）、冷蔵庫消毒、原材料・調理済み食品の保存（2週間）をしていく。
- 給食、おやつ時のアレルギー児のシールドの使用。

[5] 栄養給与目標（給食・おやつでとりたい栄養量の目安）

	エネルギー Kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミン A μ g	B1 mg	B2 mg	C mg
3歳未満児	510	19	14.5	260	2.1	210	0.28	0.33	25
3歳以上児	596	23.9	17.9	248	2.3	135	0.31	0.36	20

[6] 離乳食に関して

「離乳の基本」が改定され、個人差を考え、無理のない離乳を進めていく。1歳児の食事に関しては、離乳食（完了食）後、間もないのでムリの無いようそのまま離乳食（完了食）を準備し、少しずつ充実完成させていく。アレルギー児の「食物除去」も、それぞれの子どもの症状により対応し、必要により除去解除できるようにしていく。

<離乳食の進め方>

- ④ 食べやすい形で・・・子どもの状態にふさわしい形で与える。手づかみ食べを十分にし、囓める子どもに育てる。
- ⑤ 栄養と食品のバランスを考えて・・・準備期は別として、ある程度進んだら離乳食の中に穀類・タンパク質類・野菜の三種類を合わせる。
アレルギーをおこしやすい卵については、中期食迄使用しない献立にする。
- ⑥ 薄味で・・・調味料をできるだけ使わず、素材の味を生かして調理する。
- ⑦ 給食食材チェック表にて保護者との確認をしていく。

ク 安全管理

- ・非常災害時の避難訓練・消火訓練 毎月1回
- ・不審者訓練・水害訓練 年各1回

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

園長（保育士）	1名
主任保育士	1名
保育士	5名
パート職員	1名
調理員	1名（栄養士含む）
嘱託医	1名（非常勤）

イ 健康管理

健康診断 1年 1回
細菌検査 1年 12回

ウ 職員会議

- ・職員全体会議 毎月1回 ※随時行う
- ・リーダー会議 随時
- ・離乳食・給食会議 毎月1回
- ・行事前ミーティング 随時
- ・年齢別ミーティング（小規模3園） 各クラス担当・給食 各年2回

エ 研修計画

- ・職場内研修
- ・新人研修
- ・園長研修
- ・リーダー研修
- ・キャリアアップ研修
- ・全国保育協議会研修
- ・障害児保育研修
- ・足立区研修
- ・足立区小規模保育室連絡会研修年2回

※コロナウイルス等の感染拡大予防等でリモート研修、動画研修になる場合あり。

オ 退職・福利厚生

- ・福祉医療機構退職共済制度加入・ソウェルクラブ加入

2 特別保育事業

① 一時預かり事業

家庭内の子育ての孤立化解消の手助けと、保護者の都合により子育てが困難な場合に一時的に保育支援します。

② 延長保育促進事業

保育短時間認定の園児に対して、保育短時間を超える午後6時30分までを延長保育事業として、延長保育を行い、平常の保育時間を超えて保育を希望する保護者に対して、保育を実施します。

3 施設管理

(1) 事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・社会福祉法人会計基準を遵守し、適正な会計事務を行います。
- ・社会保険・雇用保険事務に関しては、社会保険労務士への業務委託により行います。
- ・その他の運営費の請求時事務等、施設運営に必要な事務については、本部との連携の下、行います。

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

下記の書類により行います。

児童票 1

児童票 2

入所時健康診断記録

園におけるアレルギー対応について

アレルギー調査票

健康記録と午睡チェック表

身体測定表

保育記録

食物摂取状況調査

個人情報使用同意書・個人情報保護写真等確認票

保育園写真の取扱いに関する誓約書

(2) 設備関係

ア 固定遊具の設備点検

固定遊具なし

イ その他の設備点検

職員が使用のたびに点検を行う。

(3) 備品関係

ア 備品購入予定

必要に応じて購入

イ 保育用品購入予定

必要に応じて購入

ウ 給食用品購入予定

必要に応じて購入

エ 固定資産物品購入予定

特になし

(4) 災害対策

ア 避難訓練

毎月1回

イ 防災設備の点検委託

年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄

○（全児童数+全職員数）×3食×（1日～3日）分

4 保護者にむけて

（2）保育への理解と協力の促進

ア 保育参加

保育参加は1年中オープンとし、保護者の参加を受け入れる。

入園式、クリスマス会、お別れの会は参加と参観に充てます。

※新型コロナウイルス等の感染拡大予防等で保護者の参加、参観無しの場合あり。その時は必ず子どもの様子をブログ、写真、口頭で伝えます。

イ 保護者会

年1回予定し、懇談します。

個人面談（7.8月）随時個々に応じて

ウ お知らせ

- ・園だより毎月1回発行
- ・献立表（離乳食・幼児・アレルギー）毎月1回発行
- ・キッズリーにて必要に応じてお知らせメール送信
- ・ブログによる保育内容の情報公開

5 その他

なし

SAKURA 保育園千川
2024 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都豊島区千川 2-30-2

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益の追求と保障
- ・子育てと仕事の両立支援
- ・地域の子育て支援

↓

子どもたちと保護者の皆様の幸せを願い、本気の子育て応援隊として精進します

(3) 保育方針

『保育所保育指針』を遵守し、以下のメソッド（一人一人の個性・特性に寄り添った慈光メソッド）に基づいて教育・保育を行います。

教育・保育を科学します

脳科学による適時性の教育・保育（くぼた式育児法含む）

スポーツ理論（レッシュ理論・4スタンス理論）に基づく身体能力の向上

身体の中から生きる力を育む食育

自然や日常生活を通した五感教育

躰教育

上記のプログラムを通し、認知能力・認知能力を応用する力・非認知能力を育み、以下 10 項目を卒園までに育みます。

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活とのかかわり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然とのかかわり・生命尊重
- ⑧数量・図形・文字等への関心・感覚
- ⑨ことばによる伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

(4) 保育目標

世のため人の為に生きようとする日本を支える人財になってほしい。

そのために、自立した誇りある日本人としての土台を徳・知・体を通して育みます。

↓

たくましく生き抜く力を育みます

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	66名	60名	61名	+1名	+5名	0名
0歳児	6名	5名	6名	+1名	0名	+6名
1歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
2歳児	12名	11名	12名	+1名	0名	+12名
3歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
4歳児	12名	11名	10名	▲1名	+2名	+10名
5歳児	12名	9名	9名	0名	+3名	+9名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	20名	22名	1名	7名	(0名)
園長	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育士	13名	13名	1名	2名	(0名)
保育補助	3名	3名	0名	3名	(0名)
栄養士	1名	2名	0名	1名	(0名)
看護師	1名	2名	0名	1名	(0名)
事務員	1名	1名	0名	0名	(0名)

(3) 自己評価結果

今年度の施設自己評価の実施はありませんでした

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・ 児童の健康的な成長・発達の促進
- ・ 児童の社会性や人間関係の形成・発達の支援
- ・ 児童の感性や創造力の伸長の支援

振り返り・課題

・ カリキュラムとして導入している体操を始め、戸外での散歩などを通し体力の向上に努めた。また、健康の土台となる睡眠も理想的な睡眠時間と夜の睡眠を補う役割である午睡のバランスをみな

が各家庭と連携をとって十分な睡眠時間の確保と規則正しい生活を送れるよう努めた。同じく健康の土台である食事についても栄養士が中心となった食育を始め、シダックスが作成した栄養バランスのとれた献立を提供。

そして心の健康として、ストレスを減らし自己肯定感を高められるような体操、音楽や製作の表現活動、自由遊びをバランスよく取り入れた。

・幼児クラスで活動内容によってクラスやグループ、ペアなど大小様々な規模でのチーム活動を取り入れることで、子どもたちが協力し合い、コミュニケーションをとりながら目標に向かって取り組む機会を提供した。

乳児クラスでは保育士とのやりとりを中心に、発達に応じて友達とのコミュニケーションを通じて社会性や人間関係の形成に取り組むことができた。また、それぞれ保育室が独立している乳児クラスでは夕方意識的に異年齢児との交流を図る機会を設けた。

他にも社会性の形成に必要な集団生活でのルールを、遊びの中や「仕のきまり」を通して他社との関わり方を学ぶ機会を提供した。

・自由遊びの時間を意識的に設けることで子どもたち自らがアイデアを出し、独創性や創造性を発揮できる遊びの環境を整えるとともに、戸外活動を通じて季節や植物などの自然に触れることで感性を刺激する活動を取り入れた。

他にも、絵画や粘土、季節に応じた様々な製作で育まれる想像力。歌や楽器、リトミックなどを通して育まれる感性。どちらにも共通している表現力などを刺激することができた。

② 人材育成

目標

- ・ 職員のスキルアップ
- ・ 職員のモチベーションアップ
- ・ リーダーシップの育成

振り返り・課題

・ 5月、9月、12月に行った SBT 研修を始め、6月の八田先生の研修など職員全員が揃って受講することで、法人の考えや保育観を改めて共通認識できたことから保育の質も上がった。前年度の反省にも上げていたスキルアップの一つである研修の受講も、それぞれが意識的に取り組んでおり本人のアウトプットだけでなく学んだことを職員共有することができた。

・ 目標同様、この一年間での職員研修はモチベーションを上げるのにとっても大きな効果をもたらしていた。それぞれが使命感を持ちながら視座を高くすることができていたと思う。また、職員同士でのコミュニケーションが増えたことでそれぞれが創意工夫を重ねながら職員のアイデアを受け入れ、風通しの良い職場環境を作れていた。

来年度は新卒を始め新しい職員も入職するので、その間で意識の差や居心地の良さに距離感ができてしまわないよう、話し合いの時間を意識的に設けていく。

・ それぞれが意識しながら積極的に動くことで、良い意味でリーダーシップという言葉にとらわれず日々の保育をすることができていた。特に体調不良で急遽職員の休みが出ることも多かったが、指示待ちではなく、それぞれが意見やアイデアを出し合うことで解決することができていた。反対に行事担当ではそれぞれがリーダーを意識し、すべてを担当が背負うのではなく、周囲に準備物などを協力をし合うことで互いが負担になりすぎないような動きができていたと思う。

③ 運営管理

目標

- ・ 適切な人員配置と管理
- ・ 安全・衛生の確保
- ・ 保護者とのコミュニケーションの充実

振り返り・課題

・年度途中で一名退職者があったが、ちょうど入れ替わりという形で職員採用もでき、人員配置に大きな影響はなかった。担任の変更があったことで保護者からのご意見もあったものの、臨機応変に職員配置を変更したことでそれぞれの長所を生かすことができた。

・新入園児にアレルギーの子がいたが、無事誤食などもなく対応ができた。一方、アレルギーの解除の際にはこちらの対応が遅れてしまったことにより保護者からご意見もあった。以後同じことがないように、すぐにマニュアルを見直し、改定することで保護者から安心の声をいただくこともできた。

他にも看護師や栄養士が園児の前で話す機会を設けたり、連携をとっていただくことで安全・衛生に対しての意識を高くもち、計画的に実施することができた。

・4月に保護者会、懇談会を開催。コロナ以降初となる対面形式で実施することができた。前日に感染症が増えたことで保護者会は急遽オンラインでの参加も可能とし、準備が不十分だったため反省点も出たが臨機応変に対応できたことは保護者から感謝の言葉にも繋がった。懇談会では普段送迎時間が合わない保護者同士が交流を持つ機会となり、保護者満足度も高かった。

各クラスでも必要に応じて個人面談の機会を設けるなど保護者とのコミュニケーションの機会を設けていた。今後も意識して機会を設けられるよう意識していく。

3. 当年度目標と施策

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

「体の力」「学びの力」「心の力」を養うためのカリキュラムを中心に、身体的、情緒的、社会的、認知的、健全に発達するための基盤を築きます。

- ・全人的な発達支援
- ・多様な学習経験
- ・個々の子どものニーズに応じた支援

また、不易流行の法人理念の基、時代の流れに合わせた多様性、自己表現とコミュニケーション能力、健康とウェルビーイングを支援します。

① 保育活動 担当別

担当	目標
0歳児	担任保育士との応答的保育により情緒の安定を図り、基本的信頼関係の土台作りを行います。運動ができる環境を整え、一人一人の発達段階に応じた粗大運動を積極的に取り入れ、運動能力を引き出していきます。又、五感を十分に働かせることができる人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していきます。
1歳児	自我の芽生えの時期です。自分でやりたい気持ちを大切に受容し、「待つ保育」に徹することで主体性の芽生えと意欲を大切に育みます。散歩・サーキット運動・戸外遊び等自ら環境とかがわる経験の中で運動能力を高めて

	いきます。又、五感を十分に働かせることができる人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していきます。
2 歳児	目の前にある環境に興味関心をもって自ら関わろうとする好奇心全開のエネルギーを最大限に受け止め、五感をとおして主体的に意欲的にかかわることのできる環境を整えていきます。かけっこ・戸外遊び・運動遊びを通して運動能力を高めます。文字への関心も促していきます。
3 歳児	読み書き・数量・音楽・英語・体操・5 領域の様々な保育活動の総合力と五感を大切にした徳・知・体のバランスのとれた発達を目指します。基本的なルールの理解をはじめ、創造性と表現力、感情の表現と理解を育てていきます。
4 歳児	読み書き・数量・音楽・英語・体操・5 領域の様々な保育活動の総合力と五感を大切にした徳・知・体のバランスのとれた発達を目指します。社会的スキルの発達や学習への興味と好奇心を育てていきます。
5 歳児	読み書き・数量・音楽・英語・体操・5 領域の様々な保育活動の総合力と五感を大切にした徳・知・体のバランスのとれた発達を目指します。就学に向けた取り組み、問題解決能力を育むための論理的思考力を育成します。

② 人材育成

職員一人一人が自身の能力とキャリアを充実させ、モチベーションを向上するため、以下のアプローチを行う。

- ・専門性の向上
- ・実践的なスキル習得
- ・コミュニケーションとチームビルディング

人材育成を通し、保育園の持続可能な成長と発展を目指します。

③ 運営管理

法人理念を実現し、園を発展させる。

- ・施設管理とリスク管理
- ・人事管理
- ・コミュニケーションと関係者管理

保護者や地域からの更なる信頼獲得を目指し、職員が働きやすい環境を整える。

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

【全人的な発達支援】

- ・カリキュラムの体操を中心とした、身体的な発達を促す運動遊び、健康管理の指導。
- ・情緒的な発達を支える安全な環境づくり、感情表現の機会の提供。

施策 2

【多様な学習経験】

- ・カリキュラムの読み書き計算をはじめ、自然との触れ合いや、音楽、制作を通して感性や表現力を育む。
- ・言語発達を支援する読み聞かせや語りかけ、言葉遊び。

施策 3

【個々の子どものニーズに応じた支援】

- ・子ども一人一人の興味や強み、個性を生かした活動の提供。
- ・家庭との連携を深め、家庭の状況や文化を尊重した保育の実践。

② 人材育成

施策 1

【専門性の向上】

- ・年間を通じて取り組む法人研修や、それぞれが興味のある分野への研修に参加できるよう計画する。
- ・スタッフ間での知識共有の場を設け、新しい学びや実践経験を共有する。

施策 2

【実践的なスキル取得】

- ・経験豊富な保育士を新人保育士のメンターとして指名し、日常の業務を通じて指導するとともに、定期的なフィードバックを行うことで成長をサポートする。
- ・カタグルマや管理日誌を活用し、職員同士の良い部分を共有することで互いのスキルアップを図る。

施策 3

【コミュニケーションとチームビルディング】

- ・職員一人ひとりとの個別面談を定期的実施し、キャリアプランの相談や悩み、意見を汲み取る。
- ・職員会議前のアイスブレイクや話し合いの機会を意識的に設けることで、職員の親睦を深め、チームワークを強化する。

③ 運営管理

施策 1

【施設管理とリスク管理】

- ・定期的な施設の点検とメンテナンスを行い、子どもたちが安全に遊べる環境を提供する。また、事業運営におけるリスクをを想定し、リスク軽減のための計画を行う。
- ・清潔で快適な保育環境を維持するために、日常の清掃や衛生管理を徹底する。また、学びや遊びのための設備や資材を適切に配置し、都度見直しを行う。

施策 2

【人事管理】

- ・適切な資格と経験を持つ保育士や職員の採用と配置を行う。個性と長所を活かした戦略を展開する。
- ・新たに導入される人事評価を実施し、職員の成果と貢献を正に評価する。

施策3

【コミュニケーションと関係者管理】

- ・保護者会の開催や保育参観、面談を通じて保護者との良好な関係を構築する。保護者の意見や要望を収集し、運営に反映させる。
- ・地域と協力し、地域イベントへの参加や交流を通じて地域に開かれた保育園、地域貢献を目指す。

3. 施設運営

① クラス編成

認定区分	年齢区分	定員	保育士数
2号認定	5歳児	12名	1名
	4歳児	12名	1名
	3歳児	12名	1名
3号認定	2歳児	12名	2名
	1歳児	12名	2名
	0歳児	6名	2名

② 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計 293日
25	24	25	26	26	23	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
26	24	24	23	22	25	

③ 健康管理

命を託されていることを常に念頭に置き、そのうえで、一人ひとりの成長・発達の個人差（個性）を考慮し、健康な生活習慣を身に付け、豊かな成長・発達が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

- [1] 日常養護・健康管理
- [2] 病気の予防と早期発見
- [3] 安全と事故防止
- [4] 健康増進と保健指導
- [5] 環境衛生
- [6] 感染症対策

年間保健行事

保健行事	対象年齢
内科健診	3・4・5歳児：年2回、2歳児：年4回 1・0歳児：毎月
歯科健診	全園児：年1回（歯磨き指導：1回）
眼科健診	全園児：年1回
耳鼻科健診	3・4・5歳児：年1回
尿検査	4・5歳児：年1回
身体計測	身長・体重：毎月 頭囲・胸囲：年2回

④保育方針

『保育所保育指針』に依拠し、以下の慈光メソッドに基づいて、遊びを通したバランスの取れた総合的なプログラムにより認知能力、認知能力を応用する力・非認知能力を一体的に育みます。その為に、教育・保育を科学します。

- ・脳科学による適時性の教育と保育
- ・スポーツ理論（レッシュ理論により運動能力を引き出します）
- ・身体の中から生きる力を育む「食育」
- ・自然を通した「五感教育」
- ・「躰教育」「SAKURA保育園千川 什のきまり」

⑤主な行事予定

季節の伝統行事は、大切にし、何らかの形で取り入れていきます

4月	入園式、ミニ遠足、保護者会	5月	こどもの日
6月	梅雨遊び	7月	七夕、夏祭り
8月	水遊び	9月	運動会
10月	ハロウィン	11月	秋のミニ遠足
12月	クリスマス会、乳児発表会	1月	正月遊び
2月	節分、幼児発表会	3月	ひなまつり会、卒園式、お別れ会

⑥食事

[1] 目標『食べるのが大好きな子に！』に育てます。

配慮事項

- ・薄味、和風献立に心がけます。
- ・旬の素材を使った献立作り。
- ・見た目においしく、食べておいしい食事づくり。
- ・食を科学します。摂取カロリー・栄養素の確認。
- ・保護者との連携を密にします。

[2] 栄養管理

当園の栄養士とシダックスフードサービスの栄養士が連携を取りながら、栄養管理を科学的に行っていきます。

[3] 食育

- 毎月 予定献立表を配付（幼児食・アレルギー幼児食・離乳食）。
- 掲示板 食に関わる情報を提供。
- 媒体 給食だより、食育便りを園の食事の紹介や栄養情報などをまとめ、毎月発行。
- 食を考える 年長・年中児を対象に、食品を働きを三食食品群を通して学びます。
- 食育チーム 0歳児は、月1回の食育会議にて子どもの食事の状況、離乳食の移行時期、献立について、園長・栄養士・シダックスフードサービス責任者と話し合います。又、月1回の食育会議にて、献立についての感想や反省、改善などや提供された食事への感想・反省、改善案などを出し合い、よりおいしい食事作りへ取り組んでいきます。

- ・給食献立のレシピを作り、保護者に提供。
- ・毎日の献立をブログにて紹介。

[4] 衛生管理

- ・衛生チェック表を作成し、毎日衛生項目にそって確認。
- ・調理人の細菌検査（毎月1回） 調理室・乳児調理室の掃除、冷蔵庫消毒、食器洗浄後 熱風庫にて保管、原材料・調理済み食品の保存（2週間）。

[5] 栄養給与目標（給食・おやつでとりたい栄養量の目安）

日本人の食事摂取基準（2020年版）をもとに、変更点 幼少期からの食事の嗜好や食習慣は、成人期の生活習慣病の予防に大きく関わってくることから、2020年変更点①～④を考慮し、給食の提供を行う。① 食物繊維の目標量の追加 ② カリウムの目標量の追加 ③ ナトリウム（食塩相当量）の目標量の低下 幼少期から薄味に慣れる ④ 飽和脂肪酸の目標量の追加 肉の脂身やバターなどに多い飽和脂肪酸の過剰摂取を防ぐ等、考慮して目標値を設定する。

[6] 離乳食に関して

「離乳の基本」が改定され、個人差を考え、無理のない離乳を進めていきます。1歳児の食事に関しては、離乳食（完了食）後、間もない子には、そのまま離乳食（完了食）を準備し、少しずつ完成し、充実させます。アレルギー児の「食物除去」も、それぞれの子どもの症状により対応し、必要により除去解除できるようにしていきます。

○離乳食の進め方

- ①食べ易い形で…子どもの状態にふさわしい形で与える。手づかみ食べを十分にし、噛める子どもに育てます。
- ②栄養と食品のバランスを考えて…準備期は別として、ある程度進んだら離乳食の中に穀類・タンパク質類・野菜の三種類を合わせます。アレルギーをおこしやすい卵については、中期食迄使用しない献立にします。
- ③薄味で…調味料をできるだけ使わず、素材の味を生かして調理します。

⑦安全管理

- | | |
|------------------|-------|
| ・交通安全教育 | 毎月 2回 |
| ・非常災害時の避難訓練・消火訓練 | 毎月 1回 |
| ・不審者訓練 | 年 2回 |

⑧職員に関すること

[1] 職員構成

園長	1名
主任	1名
保育士	12名
非常勤保育士	2名
パート保育士	2名
看護師	1名
栄養士	1名

事務員	1名
嘱託医（非常勤）	1名
嘱託歯科医（非常勤）	1名

〔2〕健康管理

- ・健康診断 年 1回
- ・細菌検査 毎月 1回 全職員

〔3〕職員会議

- ・職員全体会議 年間 12回
- ・発達支援会議 月 1回
- ・食育会議 月 1回
- ・リーダー会議 月 1回

〔4〕研修計画

- ・職場内研修・新人研修・リーダー研修・キャリアアップ研修・SBT研修
 - ・衛生看護研修・豊島区開催の研修会・東京都社会福祉協議会開催の研修
- ※その他必要と認める研修には随時参加

〔5〕退職・福利厚生

- ・福祉医療機構退職共済制度加入、ソエルクラブ加入

⑨特別保育事業

〔1〕延長保育事業

- ・保育標準時間を超えて保育を必要とする家庭への支援

〔2〕病児保育事業

- ・体調不良児対応型

〔3〕緊急1歳児受入事業

- ・未就園の1歳児を対象とした保育を必要とする家庭への支援

⑩連携関連

〔1〕保護者との連携

子育ての車の両輪として、密な連携を図っていきます。

- ・保護者説明会（親の会）の実施により園の運営方針を理解してもらいます。
- ・月1回の園便り・クラス便り・給食便り・保健便りの発行
- ・保育活動のブログへの掲載（毎日）・ホームページによる法人全体の情報提供
- ・アプリを使用した連絡帳の使用により、いつでもどこからでも園と連絡をとれるように します。
- ・クラスごとの懇談会を実施し、保護者間のコミュニケーションの場を設けます。

〔2〕関係機関との連携

園児の発達支援に係る行政関係機関等の連携を深め、より良い支援ができるようにしていきます。

⑪施設管理

〔1〕事務関係

ア 会計事務、管理事務

- ・社会福祉法人会計基準を遵守し、適正な会計事務を行います。
- ・社会保険・雇用保険事務に関しては、社会保険労務士への業務委託により安心・安全・安定を担保した労務管理をおこないます。
- ・その他の運営費の請求・保育料管理等施設運営に必要な事務

イ 児童処遇事務（保育、給食、健康管理）

園児一人ひとりに関するすべての情報を園児管理システム・ネットワークシステムにより作成したものを、全員が共有・周知できるようにします。最大級のセキュリティー管理の元、すべての書類をデータ化します。

〔2〕備品関係

ア 備品購入予定 必要に応じて購入

イ 保育用品購入 必要に応じて購入

ウ 給食用品購入 必要に応じて購入

エ 固定資産物品購入 予定なし

〔3〕災害対策

ア 避難訓練・消火訓練 毎月1回

イ 防災設備の点検委託 年2回（内、届け出1回）

ウ 非常食糧の備蓄 $(全児童数 + 全職員数) \times 3食 \times (1日 \sim 3日)$ 分

〔4〕近隣との連携

ア ふるさと千川協議会 どんど焼き・桜祭り・夏祭り、清掃活動等のボランティア活動

イ デーサービス豊寿園との交流（年2回）

※行事・非常訓練等で園の敷地外に出る場合・プール遊びや夏祭り等で園児の声が響く可能性がある場合は、事前にお知らせし、ご理解を得ておくようにします。

SAKURA 保育園谷在家
2024 年度事業計画

社会福祉法人慈光明徳会

1. 基本情報

(1) 所在地

東京都足立区谷在家 2-14-13

(2) 保育理念

- ・子どもの最善の利益を追求し保障していきます。
- ・子育てと仕事の両立支援に徹します。
- ・地域の子育て支援を行います

(3) 保育方針

命を守ることを第一義にあげ、『保育所保育指針』に依拠し、安心・安全な環境のもと、以下のメソッドに基づいて教育・保育を行います。

- ・脳科学の知見を活かした適時性の保育・教育
- ・脳科学の知見を活かした身体づくり
- ・体の中から生きる力をはぐくむ「食育」
- ・自然を通した「五感教育」
- ・「躰教育」什のきまり・・・人として正しい行いを学びます

上記、バランスの取れたプログラムにより、子どもの無限の可能性を引き出す環境の中で、変化する時代に対応できる「たくましく生き抜く力」を育みます

(4) 保育目標

たくましく生き抜く力をはぐくみます

世のため人のために生きようとする日本を支える人財になってほしい。
そのために、自立した誇りある日本人としての土台をつくります。

2. 前年度振り返り・課題

(1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	100名	90名	91名	+1名	+9名	+91名
0歳児	9名	7名	9名	+2名	0名	+9名
1歳児	15名	13名	15名	+2名	0名	+15名
2歳児	16名	16名	16名	0名	0名	+16名
3歳児	20名	15名	14名	▲1名	+6名	+14名
4歳児	20名	20名	19名	▲1名	+1名	+19名
5歳児	20名	19名	18名	▲1名	+2名	+18名
フリー	0名	0名	0名	0名	0名	0名

(2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	26名	32名	9名	9名	(0名)
保育士	21名	27名	8名	8名	(0名)
保育補助	2名	2名	0名	0名	(0名)
調理員(栄養士・調理師含む)	1名	1名	1名	1名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
事務員	1名	1名	0名	0名	(0名)

※離職数・・・保育士8名うち、他園への移動2名

(3) 自己評価

年に1回施設の自己評価を行い、年に2回職員の自己評価を行いました。

(4) 前年度目標と振り返り

① 保育活動

目標

- ・慈光メソッドの各年齢ごとの目標値を意識した取り組みを行う。
- ・園児管理システムの個人指導計画・個人発達記録により発達段階の確認とチェックを確実に行っていくことで個々の成長発達の管理・保障と発達上の問題の早期発見に努めていく。

振り返り・課題

・3歳児以上の読み書き・体操・4歳児以上の鍵盤ハーモニカを目標に向かって行うことができた。5歳の読み書きについても、苦手な子に個別につき指導していくことができた。全体的な結果についてはもっとよくなると思うので、来年度の課題とする。

・園児管理システムについては個人指導計画・発達記録・ケア記録をいれ、全員で共有するこ

とができた。保育計画について不十分なところがあったので、来年度はよりよい日案がた

てられるようにしていく。

② 人材育成

目標

人材育成は人間性を抜きには語れない。法人クレドの浸透をはかる。人として「徳」を身につけることに重点を置く。さらに学ぶことを推奨していく。

振り返り・課題

慈光クレド、SBT等の法人共通言語、運営マニュアル等の認識不足。
主体性の学び。
副主任の仕事内容の基準。
離職。

③ 運営管理

目標

法人・園ごとに作成されている就業規則・運営管理・重要事項説明書の内容理解を深めることで、より質の高い運営管理ができるように努める。

振り返り・課題

園児が定員MAX埋まらなかった。
玄関ドア及び玄関の雨具掛けの不具合。
インターフォンの不具合。
自転車置き場。

エアコンの掃除。

3. 当年度目標と施策

(1) 当年度目標

① 保育活動 全体

- ・安心・安全な保育活動を心がける
- ・全ての活動において毎日継続し成長につなげていく
- ・毎日マラソン・体操を行い、体幹を鍛えていく

① 保育活動 担当別

担当	目標
0 歳児	担任保育士との応答的保育により情緒の安定を図り、基本的信頼関係（愛着関係）の土台作りを行います。運動ができる環境を整え、一人一人の発達段階に応じた粗大運動を積極的に取り入れ、運動能力を引き出していきます。又、五感を十分に働かせることができる人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していきます。
1 歳児	基本的な生活習慣への確立に向けて援助する。自我の芽生えの時期です。自分でやりたい気持ちを大切に受けとめ、「待つ保育」に徹することで主体性の芽生えを育みます。散歩・サーキット運動・戸外遊び等自ら環境とかわる経験の中で運動能力を高めていきます。又、五感を十分に働かせることができる人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していきます。
2 歳児	目の前にある環境に興味関心をもって自ら関わろうとする好奇心全開のエネルギーを最大限に受け止め、五感をとおして主体的にかかわることのできる環境を整えていきます。かけっこ・戸外遊び・運動遊びをとおして運動能力を高めます。文字への関心も促していきます ブロック遊びを通して空間認識を高める 犬・くま・へび歩き、かえるジャンプなどを行い、楽しんで体操にふれる
3 歳児	読み書き（語彙力・読み解き力）・数量・音楽・英語・体操・プログラミング思考・柔軟な心の育成を《教育・保育要領》の総合的な活動のなかで育成し、知・徳・体のバランスのとれた発達を目指します。 ひらがなの拾い読みができる 友だちとの関係を築く 仕の決まりを知る

<p>4 歳児</p>	<p>読み書き（語彙力・読み解き力）・数量・音楽・英語・体操・プログラミング思考・柔軟な心の育成を《教育・保育要領》の総合的な活動のなかで育成し、知・徳・体のバランスのとれた発達を目指します。</p> <p>ひらがな・カタカナが読め、ひらがなが書ける</p> <p>チームワークの基礎を学ぶ</p> <p>仕の決まりを守ろうとする</p>
<p>5 歳児</p>	<p>読み書き（語彙力・読み解き力）・数量・音楽・英語・体操・プログラミング思考・柔軟な心の育成を《教育・保育要領》の総合的な活動のなかで育成し、知・徳・体のバランスのとれた発達を目指します。</p> <p>ひらがな・カタカナは完全に読み書ける</p> <p>仕の決まりを守ろうとする</p> <p>仲間を応援することができる</p> <p>年長児は、就学を意識した接続期の取り組みにより、スムーズな就学へとつなげます。</p>
<p>フリー</p>	

② 人材育成

- ・入職された職員の方が、慈光明徳会クレドに基づいて業務にあたるようにする。
- ・入職された職員の方が、SBT を受講し法人としての共通言語を理解し、目標を立て挑戦できるようにする。
- ・入職された職員の方が、この法人で働き続けたいと心から思い、勤務継続し離職ゼロにする。

③ 運営管理

- ・園児の集客に向け、宣伝を強化する。
- ・エアコンの掃除、業者で行う。

(2) 実施施策

① 保育活動

施策 1

0 歳児

① 愛着形成

担任との応答的保育により情緒の安定を図り、基本的信頼関係の土台作りを行う。

② 運動能力の向上

運動ができる環境を整え、一人ひとりの発達段階に応じた粗大運動を積極的にとり入れる。バランスボールを取り入れ体幹を鍛えていく。

③ 五感の成長

五感を充分働かせることが出来る人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していく。

施策2

1 歳児

① 基本的な生活習慣の確立に向けての援助

自我の芽生えの時期なので、自分でやりたい気持ちを大切に受け止め、「待つ」保育に徹することで主体性の芽生えを育てていく。

② 運動能力を高める

散歩・サーキット運動・走ることを通して運動能力を高めていく。バランスボールを使い体幹を鍛えていく。

③ 五感の成長

五感を充分働かせることが出来る人的・物的環境を整え、バランスのとれた発達を促していく。

施策3

2 歳児

① 色々なことに主体的に関わろうとすることへの援助

目の前にある環境に興味関心をもって自ら関わろうとする好奇心全開のエネルギーを最大限に受け止め、五感をとおして主体的にかかわることのできる環境を整えていく。

② 運動能力を高める

かけっこ・戸外遊び・運動遊びをとおして運動能力を高める。また、犬・くま・へび歩き、かえるジャンプなどを行い、楽しんで体操にふれる。

③ 文字への関心を促す

フラッシュカード・絵本を通して文字への関心を促していく

施策4

3 歳児

① 数・英語・文字に関心を持つ

ひらがなを読めるように援助していく。フラッシュカード・絵本の読み読みを通してひらがなに興味を持たせる。毎日の ECC 教育や活動の中で数の質問をし、興味を持たせていく。

② 身体能力の向上

毎日体操・マラソンを行うことでやりぬく力・忍耐力・協調性などの非認知能力を培っていく

③ 什の決まりを知る

全員で毎日唱えていく

④ 友だちとの関係を築く

友達を遊びに誘ったり喧嘩しても仲直りすることができるよう援助していく

施策5

4 歳児

① 文字・数の獲得

ワークや天神を毎日行い、ひらがなをなぞって書けるよう援助していく。

また、ワークや天神を使い数の概念が分かるようにする。

② 身体能力の向上

毎日体操・マラソンを行うことでやりぬく力・忍耐力・協調性などの非認知能力を培っていく

③ 英語の習得

ECC を毎日行い、かんたんな挨拶・単語を習得できるよう援助していく

④ 鍵盤ハーモニカができるようになる

毎日鍵盤ハーモニカを行い、簡単な曲なら弾けるよう援助していく。

⑤ チームワークの基礎を学ぶ

友だちと考えながら行動を共にすることができる

施策6

5 歳児

① 文字・数の獲得

ワークや天神を毎日行い、ひらがな・カタカナが書けるよう援助していく。

また、ワークや天神を使い計算ができるようにする。

② 身体能力の向上

毎日体操・マラソンを行うことでやりぬく力・忍耐力・協調性などの非認知能力を培っていく

③ 英語の習得

ECC を毎日行い、挨拶・単語を習得できるよう援助していく

④ 鍵盤ハーモニカができるようになる

毎日鍵盤ハーモニカを行い、少し難しい曲が弾けるよう援助していく

⑤ 仲間を応援することができる

体操などを通して、苦手なものに挑戦しようとする友達を応援することができるよう援助していく。

⑥ 接続期を意識したプログラムを行う

保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し、毎日カリキュラムをおこなっていく。

⑦ 仕の決まりを守ろうとする

② 人材育成

施策 1

- ・ 新入職員に向けて、4月13日迄に理事長認定の職員がクレドを伝える。
- ・ 新入職員に向けて、4月13日迄に園長もしくは主任が園児管理システム・書類申請等を伝える。
- ・ 職員会議にて、運営マニュアル、重要なケース等を読み合わせ認知する。
- ・ 新入職員に向けて、5月中に SBT1 級コーチがスターターを行う。

③ 運営管理

施策 1

- ・ チラシの配布
- ・ ホームページを見やすくする。
- ・ エアコン掃除を業者に依頼する。(5月中もしくは6月上旬。)

① 理念

すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します 輝く瞳・溢れる笑顔

HAPPY SMILE THANK YOU SMILE

EVERYBODY SMILE

② 運営方針

「不易流行」

法人の理念である子供達の最善の利益の追求を行うために、子供達の安全と成長発達を第一に考えたサービスを行うという不易の部分を経営の土台としながら、子供達一人一人の成長発達を行うために、既存のやり方にこだわることなく、科学的な根拠の元、様々な方法を試みながら、サービスを展開していきます。

上記の考えの元、どの子にも、安心と達成感を味わうことのできる療育サービスを行います。私たちは、子供達にできないことを繰り返し練習させてできるようにするのではなく、できないことにぶつかった子供たちが、「〇〇があったらできた!」「〇〇したらできた!」「〇〇に変えたらできた!」と感じられるサポートをすること、これが「支援」だと考えています。

「安心感と達成感のための仕掛け」これが支援であり、その仕掛けを探し、見つけて、実践することが私たち療育機関の役割だと考えています。

子供達にとって意味のある活動を通して、「やった!」という達成感や「できた!」という達成感をたくさんえられるように支援していきます。

③ 療育の目標

子育ての最終目標は「自立」です。例え障がいがあっても、周りの方の協力や様々な福祉サービスを利用しながら、可能な限りの自立をはかり、人生を楽しみながら社会の一員として生きていくべきだと思います。

法人ではこれまで、保育・幼児教育の世界で80年間、困り感や障がいのある子ども達と数多く関わってきました。

多くの実践の中で確信をもって言えることは、「すべての子どもの可能性は無限大」ということです。障がいがあっても、それは一つの個性です。不得意なことがあれば、必ず得意なことがあります。

その個性を一つ一つ丁寧に伸ばしていくことで、他の能力も必ず伸びてきます。幼少期の頃にしっかりとした土台をつくってあげれば、それは一生の財産となります。

今まで関わってきた様々な障がいをもっている子どもたちの中には、小学生で跳び箱15段を跳ぶ子もいれば、漢検や数検を自分の学年以上の級をとる子、プログラミングや制作で想像力豊かな大人顔負けの作品を作る子、人を楽しませるのが得意な子と様々です。

『根を育てれば樹は育つ!』どんな子でも必ず素晴らしい可能性を持っています。

LSJでは、ご家庭や関係機関と協力しながら、子ども達の成長・発達を、専門性を持った職員がしっかりサポートしていきます。

③ 事業内容

(1) 実施事業

多機能型事業所

サービスの種類：児童発達支援、放課後等デイサービス

定員：10名

(2) 職員構成

管理者（児童発達管理責任者兼務）	1名
児童指導員（常勤）	3名
保育士（常勤）	1名
保育士パート	1名

(3) 営業日、営業時間

月曜日～土曜日 9時半～17時半

(4) サービス提供時間

児発：10時～12時（1時間半以上） 13時半～17時半（1時間半以上）
放デイ：平日 13時半～17時半（1時間半以上）
学校休業日 10時から～17時半（3時間～5時間以上）

(5) 具体的な療育内容

1. 個別支援計画の作成と実施

（利用児の状況に応じて、個別またはグループでの活動を設定する。）

2. 遊びや学習を組み合わせたプログラム

☆運動療法（運動療法の詳細は別紙参照）

- ・遊びを通じた、感覚・運動面に対する支援
- ・日常生活における基本的動作の指導（道具や方法の検討）

☆学習支援 習熟度にあわせて学習支援

3. 学校の放課後や休日におけるサポート

4. ご家族への支援のや情報提供

5. 各関係機関との連携

児童発達支援流れ

送迎～各人ごとの運動療法・SST（約1時間半～2時間）～送迎

放課後等デイサービス流れ

（平日） 送迎～間食～学習支援（宿題含む）～自由遊び・運動療育～送迎
（学校休業日） 送迎～学習支援～昼食～（自由遊び・体験学習・野外活動等）～間食～
（自由遊び・体験学習・野外活動等～送迎）

⑤ 施設の状況

賃借物件 1階テナント（東京都足立区竹の塚3丁目3番14号 パレスホリケファイブ101）

⑥ 経営（財務） 予算書参照

① 理念

すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します 輝く瞳・溢れる笑顔

HAPPY SMILE THANK YOU SMILE
EVERYBODY SMILE

② 運営方針

「不易流行」

法人の理念である子供達の最善の利益の追求を行うために、子供達の安全と成長発達を第一に考えたサービスを行うという不易の部分を経営の土台としながら、子供達一人一人の成長発達を行うために、既存のやり方にこだわることなく、科学的な根拠の元、様々な方法を試みながら、サービスを展開していきます。

上記の考えの元、どの子にも、安心と達成感を味わうことのできる療育サービスを行います。私たちは、子供達にできないことを繰り返し練習させてできるようにするのではなく、できないことにぶつかった子供たちが、「〇〇があったらできた!」「〇〇したらできた!」「〇〇に変えたらできた!」と感じられるサポートをすること、これが「支援」だと考えています。

「安心感と達成感のための仕掛け」これが支援であり、その仕掛けを探し、見つけて、実践することが私たち療育機関の役割だと考えています。

子供達にとって意味のある活動を通して、「やった!」という達成感や「できた!」という達成感をたくさんえられるように支援していきます。

③ 療育の目標

子育ての最終目標は「自立」です。例え障がいがあっても、周りの方の協力や様々な福祉サービスを利用しながら、可能な限りの自立をはかり、人生を楽しみながら社会の一員として生きていくべきだと思います。

法人ではこれまで、保育・幼児教育の世界で80年間、困り感や障がいのある子ども達と数多く関わってきました。

多くの実践の中で確信をもって言えることは、「すべての子どもの可能性は無限大」ということです。障がいがあっても、それは一つの個性です。不得意なことがあれば、必ず得意なことがあります。その個性を一つ一つ丁寧に伸ばしていくことで、他の能力も必ず伸びてきます。幼少期の頃にしっかりとした土台をつくってあげれば、それは一生の財産となります。

今まで関わってきた様々な障がいをもっている子どもたちの中には、小学生で跳び箱15段を跳ぶ子もいれば、漢検や数検を自分の学年以上の級をとる子、プログラミングや制作で想像力豊かな大人顔負けの作品を作る子、人を楽しませるのが得意な子と様々です。

『根を育てれば樹は育つ!』どんな子でも必ず素晴らしい可能性を持っています。

LSJでは、ご家庭や関係機関と協力しながら、子ども達の成長・発達を、専門性を持った職員がしっかりサポートしていきます。

③ 事業内容

(1) 実施事業

多機能型事業所(特例)

サービスの種類: 児童発達支援、放課後等デイサービス

定員：10名

(2) 職員構成

管理者（児童発達管理責任者兼務）	1名
児童指導員（常勤）	0名
保育士（常勤）	4名
指導員（常勤）	1名

(3) 営業日、営業時間

月曜日～土曜日 9時半～17時半

(4) サービス提供時間

児発：10時～12時（1時間半以上） 13時半～17時半（1時間半以上）

放デイ：平日 13時半～17時半（1時間半以上）

学校休業日 10時から～17時半（3時間～5時間以上）

(5) 具体的な療育内容

1. 個別支援計画の作成と実施

（利用児の状況に応じて、個別またはグループでの活動を設定する。）

2. 遊びや学習を組み合わせたプログラム

☆運動療法（運動療法の詳細は別紙参照）

- ・遊びを通じた、感覚・運動面に対する支援
- ・日常生活における基本的動作の指導（道具や方法の検討）

☆学習支援 習熟度にあわせて学習支援

3. 学校の放課後や休日におけるサポート

4. ご家族への支援のや情報提供

5. 各関係機関との連携

児童発達支援流れ

送迎～各人ごとの運動療法・SST（約1時間半～2時間）～送迎

放課後等デイサービス流れ

（平日） 送迎～間食～学習支援（宿題含む）～自由遊び・運動療育～送迎

（学校休業日） 送迎～学習支援～昼食～（自由遊び・体験学習・野外活動等）～間食～
（自由遊び・体験学習・野外活動等～送迎）

⑤ 施設の状況

賃借物件 1階テナント（東京都足立区梅田7丁目25番2号 高須ビル101）

⑦ 経営（財務） 予算書参照

① 理念

すべての人の幸せを願って最善の利益を追求します 輝く瞳・溢れる笑顔

HAPPY SMILE THANK YOU SMILE
EVERYBODY SMILE

② 運営方針

「不易流行」

法人の理念である子供達の最善の利益の追求を行うために、子供達の安全と成長発達を第一に考えたサービスを行うという不易の部分を経営の土台としながら、子供達一人一人の成長発達を行うために、既存のやり方にこだわることなく、科学的な根拠の元、様々な方法を試みながら、サービスを展開していきます。

上記の考えの元、どの子にも、安心と達成感を味わうことのできる療育サービスを行います。私たちは、子供達にできないことを繰り返し練習させてできるようにするのではなく、できないことにぶつかった子供たちが、「〇〇があったらできた!」「〇〇したらできた!」「〇〇に変えたらできた!」と感じられるサポートをすること、これが「支援」だと考えています。

「安心感と達成感のための仕掛け」これが支援であり、その仕掛けを探し、見つけて、実践することが私たち療育機関の役割だと考えています。

子供達にとって意味のある活動を通して、「やった!」という達成感や「できた!」という達成感をたくさんえられるように支援していきます。

③ 療育の目標

子育ての最終目標は「自立」です。例え障がいがあっても、周りの方の協力や様々な福祉サービスを利用しながら、可能な限りの自立をはかり、人生を楽しみながら社会の一員として生きていくべきだと思います。

法人ではこれまで、保育・幼児教育の世界で80年間、困り感や障がいのある子ども達と数多く関わってきました。

多くの実践の中で確信をもって言えることは、「すべての子どもの可能性は無限大」ということです。障がいがあっても、それは一つの個性です。不得意なことがあれば、必ず得意なことがあります。

その個性を一つ一つ丁寧に伸ばしていくことで、他の能力も必ず伸びてきます。幼少期の頃にしっかりとした土台をつくってあげれば、それは一生の財産となります。

今まで関わってきた様々な障がいをもっている子どもたちの中には、小学生で跳び箱15段を跳ぶ子もいれば、漢検や数検を自分の学年以上の級をとる子、プログラミングや制作で想像力豊かな大人顔負けの作品を作る子、人を楽しませるのが得意な子と様々です。

『根を育てれば樹は育つ!』どんな子でも必ず素晴らしい可能性を持っています。

LSJでは、ご家庭や関係機関と協力しながら、子ども達の成長・発達を、専門性を持った職員がしっかりサポートしていきます。

④ 事業内容

(1) 実施事業

多機能型事業所（規模別）

サービスの種類：児童発達支援、放課後等デイサービス

定員：児童発達支援 10名
放課後等デイサービス 10名

(2) 職員構成

管理者（児童発達管理責任者兼務） 1名
児童発達支援管理責任者 1名
児童指導員（常勤） 2名
保育士（常勤） 3名
指導員（常勤） 2名

(3) 営業日、営業時間

月曜日～土曜日 9時半～17時半

(4) サービス提供時間

児発：10時～12時（1時間半以上） 13時半～17時（1時間半以上）
放デイ：平日 13時半～17時半（1時間半以上）
学校休業日 10時から～17時半（3時間～5時間以上）

(5) 具体的な療育内容

1. 個別支援計画の作成と実施

（利用児の状況に応じて、個別またはグループでの活動を設定する。）

2. 遊びや学習を組み合わせたプログラム

☆運動療法（運動療法の詳細は別紙参照）

- ・遊びを通じた、感覚・運動面に対する支援
- ・日常生活における基本的動作の指導（道具や方法の検討）

☆学習支援 習熟度に合わせた学習支援

3. 学校の放課後や休日におけるサポート

4. ご家族への支援や情報提供

5. 各関係機関との連携

児童発達支援流れ

送迎～各人ごとの運動療法・SST（約1時間半～2時間）～送迎

放課後等デイサービス流れ

（平日） 送迎～間食～学習支援（宿題含む）～自由遊び・運動療育～送迎

（学校休業日） 送迎～学習支援～昼食～（自由遊び・体験学習・野外活動等）～間食～

（自由遊び・体験学習・野外活動等～送迎）

⑤施設の状況

賃借物件 1階テナント（東京都足立区谷在家2丁目12番10号 パークサイドレジデンス1階）

⑥経営（財務） 予算書参照

令和6年度 放課後児童健全育成事業
慈光学童クラブ・慈光学童クラブ Smile 事業計画

目 的

落ち着いた環境の中で放課後の安心・安全な生活の場を保障し、さらに、学習支援を行うことで児童の健全な育成を図る

学童クラブの理念

球磨郡から世界へ羽ばたく児童の育成

学童クラブの目標

- ・挨拶の徹底
- ・自主性を養う
- ・読書週間を身に着ける
- ・思いやりの気持ちを育てる
- ・いろいろな人がいることを理解する
- ・集団や公共のマナー・ルールを身につける
- ・自分思いや気持ちを表現することができるようになる。

育成方針

不易流行

- ・基礎学力の充実（プリント学習・各種検定試験）
- ・自学自習の習慣化
- ・仕のきまりの徹底
- ・PC・タブレットによる e-learning 学習「すらら」「天神英語」

学習支援

e-learning すらら（国語・算数）をメインに、読解力を養う「論理エンジン」その他のプリント学習を用い、個別最適化をめざす。

生 活

来所後、学習を終えた児童が発達段階に応じた主体的な遊びや生活が出来るようにする。タブレットは時間を設けて使用を許可。室内での製作活動や本に親しめるよう環境を作る。

長期休暇

- ・規則正しい生活・学習プログラム
- ・B&G を活用したプール遊び
- ・館外学習
- ・菜園作り
- ・清掃活動
- ・夏祭り
- ・キッズセミナー

- ・クリスマス会
- ・初詣
- ・こども園との交流活動

障害児保育

放課後等デイサービスを利用している児童の支援を行う。個々の特質に合わせてながらコミュニケーション能力を高め基礎学力の向上を図る。子ども達同士、共に成長出来るように支援する。株式会社常笑と連携・協力する。

災害時対策

非常訓練実施 年2回
不審者訓練 年2回

職員研修・育成

法人職員研修・SBT研修・MUGEN MOVIE
学童支援員資格取得

児童数・開設日数・職員体制 2支援

支援	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
学童クラブ	5	2	5	4	2	4	22
Smile	5	3	4	6	3	3	24

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25	24	25	26	26	23	26	24	24	25	22	25	295日
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	職員数 学童
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	職員数 Smile

安全計画管理表・・・別紙添付

育成計画書・・・別紙添付